

静岡県月例経済報告

(平成29年3月号)

……平成29年1月を中心とした県内経済のすがた……

No. 491

—静岡県経済産業部—

目 次

I 静岡県経済の概況	1
II 静岡県主要経済指標の概況	4
・ 需要面	4
・ 生産面	13
・ 雇用面	15
・ その他	18
III 静岡県主要産業の動向	22
IV データからみた県内主要産業	25

利用にあたって

- 1 本月報は、本県経済の状況について、経済統計及び産業動向をとりまとめたものである。
- 2 本月報は4部から構成されている。
- 3 第1部では、本県経済の概況について経済統計データを中心に述べているが、指標によっては当該月データが未公表のため前月値を用いる場合がある。これらの指標は文中に示している。
- 4 第2部では、本県経済の動向について主要経済指標を用いて、データとグラフで示している。
- 5 第3部では、本県の主要産業動向について簡単にまとめている。
- 6 第4部では、本県の主要産業動向についてデータで示している。
- 7 本月報で用いた ▲はマイナスを表している。
- 8 数字の単位未満は四捨五入することを基本としているが、情報提供元の公表方法に準拠させている。

この「静岡県月例経済報告」は、静岡県経済産業部のインターネット・ホームページに掲載しています。

ホームページアドレス(URL) <http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/>

I 静岡県経済の概況

〔本稿は、平成29年1月を中心とした経済統計及び企業ヒアリングをもとに取りまとめている。〕

概況

平成29年1月を中心とした静岡県の景気は、緩やかに回復しつつあるが、一部に弱さがみられる。

先行きについては、底堅い設備投資意欲などを背景に、景気回復の動きが確かなものとなることが期待されるものの、生産の回復状況と海外経済の動向に注意する必要がある。

雇用情勢は、改善の動きを続けている。

- ・ 個人消費は、持ち直しに向けた動きがうかがわれる。
- ・ 設備投資は、持ち直している。
- ・ 輸出は、下げ止まっている。
- ・ 生産は、下げ止まりつつある。

需要面

◎個人消費は、持ち直しに向けた動きがうかがわれる。

大型小売店販売額(1月)は、百貨店が6か月ぶりに前年実績を上回ったものの、スーパーが2か月連続で前年実績を下回ったことから、総額でも、2か月連続で前年実績を下回った。

専門量販店等販売額(1月)は、家電大型専門店が3か月連続で前年実績を下回ったものの、コンビニエンスストアが7か月連続、ドラッグストアが22か月連続、ホームセンターが2か月ぶりに前年実績を上回ったことから、総額でも前年実績を上回った。

自動車(新車)新規登録台数(1月)は、軽自動車4か月連続で前年実績を下回ったものの、乗用車が6か月連続で前年実績を上回ったことから、総数でも3か月連続で前年実績を上回った。

◎住宅建設は、前年を下回った。

分譲住宅が3か月ぶりに前年実績を上回ったものの、持家が2か月ぶり、貸家が3か月ぶりに前年実績を下回ったことから、全体でも2か月ぶりに前年実績を下回った。

◎公共投資は、前年を上回った。

公共工事請負金額(1月)は、2か月連続で前年実績を上回った。

◎設備投資は、持ち直している。

日銀短観(平成28年12月14日)の28年度設備投資計画は、製造業、非製造業ともに増加する計画となっており、全産業でも増加する計画となっている。

着工建築物床面積(非居住用)(1月)は、3か月連続で前年実績を上回った。

◎輸出は、下げ止まっている。

輸入は、前年を下回った。

輸出総額（1月）は、原動機が3か月ぶり、科学光学機器が2か月ぶりに前年実績を下回ったものの、エアコンが5か月ぶり、自動車は3か月連続、自動車の部分品が5か月連続、二輪自動車類が2か月ぶりに前年実績を上回ったことから、全体では3か月連続で前年実績を上回った。

また、輸入総額（1月）は、原動機が3か月連続で前年実績を上回ったものの、全体では2か月連続で前年実績を下回った。

なお、輸出入のバランスは、647億円の輸出超過となった。

生産面

◎生産は、下げ止まりつつある。

鉱工業生産指数（12月）は、はん用・生産用・業務用機械が4か月ぶり、電気機械が2か月連続、輸送機械が22か月ぶりに前年水準を上回ったものの、化学が3か月連続、パルプ・紙・紙加工品、食料品・たばこがいずれも4か月連続で前年水準を下回ったことから、総合でも4か月連続で前年を下回った。また、2か月連続で前月を上回った。

なお、鉱工業在庫指数（12月）は、総合では4か月連続で前年水準を下回った。

雇用面

◎雇用情勢は、改善の動きを続けている。

有効求人倍率（1月）は1.43倍で、前月を0.02ポイント上回り、36か月連続で1倍を上回った。また、全国値と同水準となった。

雇用保険受給者実人員（1月）は、42か月連続で前年実績を下回った。

また、所定外労働時間指数（12月）は、前年を下回った。

その他

◎金融環境は、貸出残高は前年を上回り、信用保証金額は前年を下回った。

県内金融機関の貸出残高（1月）は、前年同月比1.3%増と前年実績を上回った。

信用保証協会保証金額（1月）は、前年同月比8.3%減と前年実績を下回った。

◎企業倒産は、件数は前年を下回り、負債総額は前年を上回った。

企業倒産（2月）は、件数は18件で前年同月比33.3%減と、前年実績を下回った。

負債総額は前年同月比164.0%増と、前年実績を上回った。

<<県の取組>>

【 平成29年度当初予算概要 】

<方針>

総合計画後期アクションプランの最終年度を迎え、その総仕上げを行うとともに、世界から憧れを呼ぶ『ジャパニーズ・ドリーム』の展開と発信に取り組みます。

<予算の規模>

一般会計 1兆2,058億円 (対前年度比 Δ 2.8%)

●歳出の状況

○義務的経費は、8.1%減の6,058億53百万円 (Δ535億61百万円)

- ・人件費 (Δ592億70百万円) : 教職員給与の政令市移譲 (Δ643億68百万円)
- ・扶助費 (+45億75百万円) : 子ども・子育て給付費負担金、後期高齢者医療給付費負担金等の増

○税収関連法定経費は、14.8%増の2,111億35百万円 (+272億51百万円)

- ・個人県民税所得割交付金 (+285億40百万円) : 教職員給与の政令市移譲に対する財源措置

○投資的経費は、0.3%減の1,692億69百万円 (Δ5億64百万円)

- ・公共・直轄 (Δ34億63百万円) : 平成27年度の国補正に伴い、平成28年度当初予算に計上した事業の減
- ・単 独 (+22億89百万円) : 富士山静岡空港旅客ターミナルの増改築 (+10億4百万円)
: 富士山世界遺産センター (仮称) 建築 (+7億96百万円)

○その他の経費は、3.6%減の2,195億43百万円 (Δ82億54百万円)

- ・貸付金 (Δ57億55百万円) : 県立病院機構への貸付金 (先端医学棟の整備) の減 (Δ55億85百万円)

●歳入の状況

○県税は、2.8%減の4,820億円 (Δ140億円)

- ・法人2税 : 税制改正による外形標準課税の割合拡大に伴う影響等 (Δ63億50百万円)
- ・個人県民税 : 配当割、株式等譲渡所得割等の減 (Δ60億9百万円)

○実質的な地方交付税 (地方交付税+臨時財政対策債) は、7.3%減の2,155億円 (Δ170億円)

- ・教職員給与の政令市移譲に対する財源措置の影響 (Δ150億85百万円)

○国庫支出金は、13.0%減の1,184億5百万円 (Δ177億38百万円)

- ・教職員給与の政令市移譲に対する財源措置の影響 (Δ143億7百万円)

○県債 (臨時財政対策債を除く) は、7.0%増の693億94百万円 (+45億14百万円)

- ・単独事業の増

II 静岡県主要経済指標の概況

需 要 面

1 個人消費

(1) 大型小売店販売額

1 月 = 36,340百万円

*前年同月比： 0.3%減

(県内3百貨店、130スーパー合計)

<概況>

1月の大型小売店販売額は36,340百万円で、前年同月比0.3%減となり、2か月連続で前年実績を下回った。

業態別にみると、百貨店(前年同月比0.1%増)が6か月ぶりに前年実績を上回ったものの、スーパー(同0.4%減)が2か月連続で前年実績を下回ったことから、総合でも2か月連続で前年実績を下回った。

商品別では、身の回り品(前年同月比0.2%増)が2か月連続、飲食料品(同0.1%増)が4か月連続で前年実績を上回ったものの、衣料品(同1.2%減)、家庭用品(同4.3%減)がいずれも2か月連続で前年実績を下回った。

なお、店舗数調整前の前年同月比は1.9%減となり、2か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

	28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
販売額(百万円)	33,329	35,711	33,931	31,351	33,979	34,265	42,002	36,340
前年同月比(%)	0.0	0.7	▲2.7	▲3.5	▲1.0	2.5	▲0.9	▲0.3
うち百貨店(%)	▲3.4	1.1	▲4.9	▲5.2	▲2.8	▲0.7	▲0.7	0.1
スーパー(%)	0.9	0.5	▲2.3	▲3.1	▲0.5	3.4	▲0.9	▲0.4
(参考1)全国前年同月比(%)	▲1.5	0.6	▲3.6	▲3.2	▲1.0	▲0.3	▲1.3	▲1.1
うち百貨店(%)	▲3.6	▲0.2	▲6.0	▲5.0	▲4.0	▲2.7	▲2.0	▲1.2
スーパー(%)	▲0.3	1.1	▲2.6	▲2.3	0.6	1.1	▲0.9	▲1.1
(参考2)県前年同月比(店舗数調整前)	0.3	0.9	▲2.9	▲3.2	▲0.9	1.4	▲1.9	▲1.9

(注)販売額は店舗数未調整、前年同月比は店舗数調整済、全月速報値

<資料>経済産業省

<商品別前年同月比の推移>

(単位:%)

	28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
衣料品	1.6	0.9	▲6.3	▲5.4	▲2.1	4.9	▲2.6	▲1.2
うち紳士服・洋品	6.2	4.1	▲2.6	▲4.5	0.5	9.9	1.6	2.9
婦人・子供服・洋品	▲0.5	0.7	▲7.4	▲5.3	▲2.5	3.0	▲3.9	▲2.5
身の回り品	▲2.3	1.3	▲4.9	▲10.9	▲6.8	▲0.9	0.1	0.2
飲食料品	▲0.1	0.6	▲1.2	▲2.3	0.1	2.8	0.2	0.1
家庭用品	▲4.6	▲2.4	▲6.7	▲6.0	▲6.8	2.8	▲5.0	▲4.3
うち家庭用電気機械器具	7.1	▲2.4	▲13.1	▲4.7	9.6	4.5	▲7.4	▲6.0

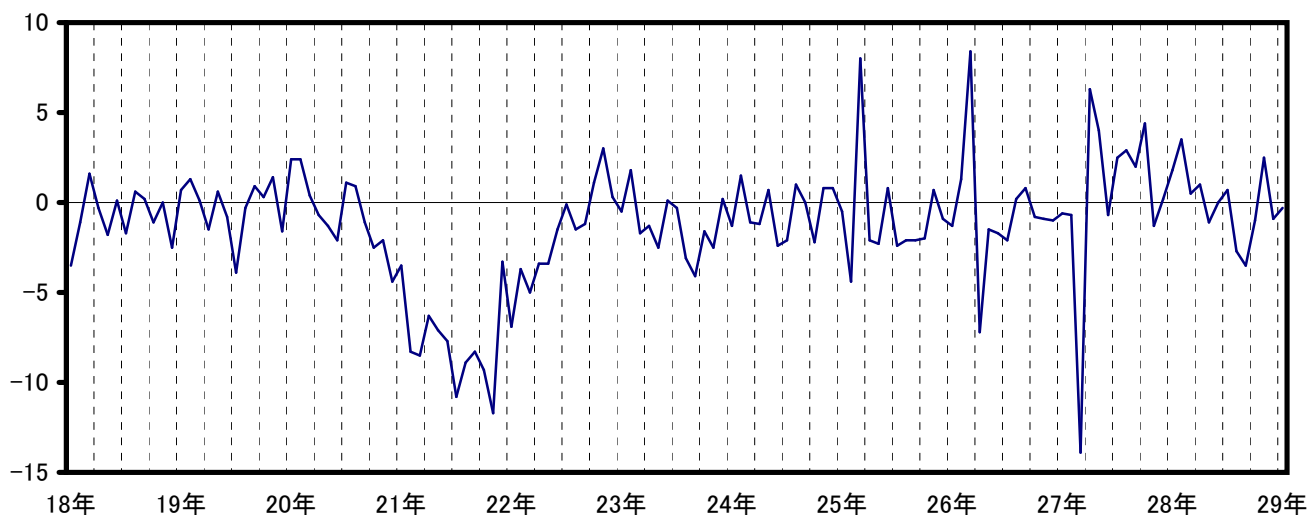
(注)店舗数調整済、全月速報値

<資料>経済産業省

<過去10年間の推移>

大型小売店販売額前年同月比(%)

<資料>経済産業省



(2) 百貨店販売額

1月 = 6,985百万円

*前年同月比： 0.2%増

(県内3百貨店販売額)

<概況>

1月の県内3百貨店の販売額は6,985百万円で、前年同月比0.2%増となり、6か月ぶりに前年実績を上回った。

品目別にみると、衣料品(前年同月比2.5%減)が15か月連続、家庭用品(同6.5%減)が3か月ぶり、食料品(同4.8%減)が2か月連続で前年実績を下回ったものの、身の回り品(同6.3%増)が3か月連続、雑貨(同13.2%増)が2か月連続で前年実績を上回った。

<最近の動き>

	28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
販売額(百万円)	5,860	7,052	5,008	5,074	6,194	6,522	8,966	6,985
前年同月比(%)	▲3.4	1.1	▲5.8	▲5.3	▲2.7	▲0.6	▲0.7	0.2
(参考)全国前年同月比(%)	▲3.5	▲0.1	▲6.0	▲5.0	▲3.9	▲2.4	▲1.7	▲1.2

(注)販売額は店舗数未調整、前年同月比は店舗数調整済

<資料>県百貨店協会、日本百貨店協会

<品目別前年同月比の推移>

(単位：%)

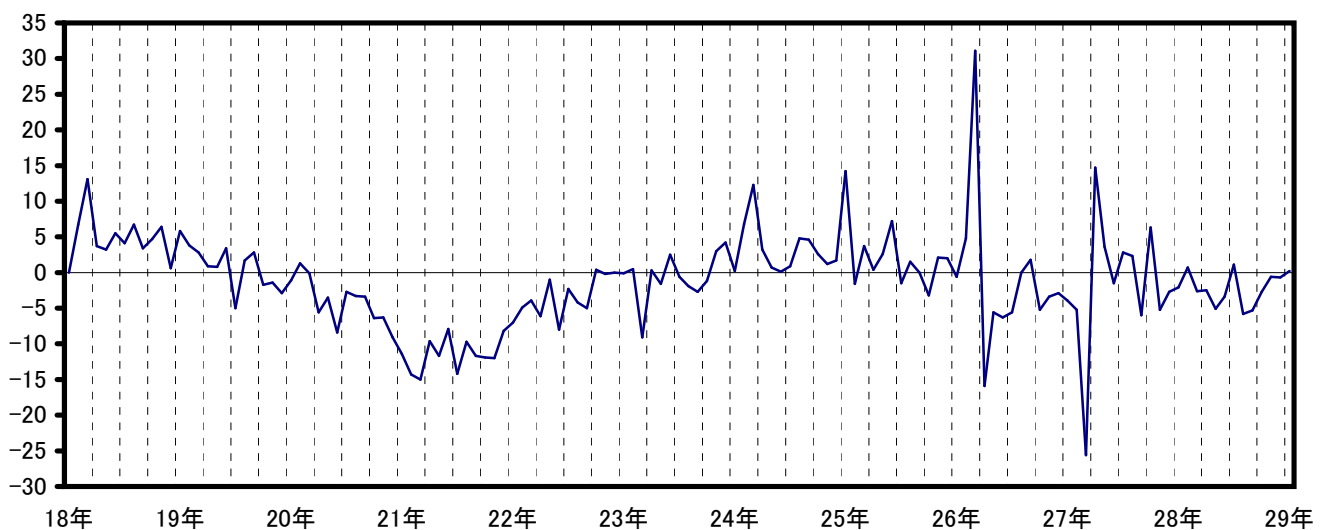
	28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
衣料品	▲5.3	▲1.6	▲12.5	▲8.4	▲5.2	▲2.2	▲3.8	▲2.5
うち紳士服・洋品	▲10.3	▲5.7	▲23.0	▲9.7	▲6.3	▲4.0	▲5.5	▲2.4
婦人服・洋品	▲2.6	0.3	▲10.2	▲7.8	▲4.3	▲1.5	▲3.3	▲2.0
子供服・洋品	▲17.3	▲8.2	▲15.4	▲18.3	▲7.1	▲4.2	▲4.7	▲7.3
身の回り品	▲1.0	5.4	▲4.2	▲4.6	▲1.8	4.3	5.9	6.3
家庭用品	▲15.6	9.3	▲1.9	▲2.1	▲17.1	2.6	0.8	▲6.5
食料品	▲3.2	▲2.1	2.5	▲4.9	▲1.6	0.5	▲0.3	▲4.8
雑貨	5.2	8.4	▲4.5	0.3	8.4	▲0.7	1.6	13.2
うち美術・宝飾・貴金属	▲7.1	▲11.0	▲21.4	▲16.0	4.9	▲6.9	▲18.0	24.1

(注)店舗数調整済

<過去10年間の推移>

県内百貨店販売額前年同月比(%)

<資料>県百貨店協会



(3) 専門量販店等販売額

1月 = 63,347百万円

*前年同月比： 2.7%増

(県内91家電大型専門店、1,760コンビニエンスストア、448ドラッグストア、101ホームセンター合計)

<概況>

1月の専門量販店等販売額は63,347百万円で、前年同月比 2.7%増となり、5か月連続で前年実績を上回った。

業態別にみると、家電大型専門店（前年同月比 2.0%減）が3か月連続で前年実績を下回ったものの、コンビニエンスストア（同 3.5%増）が7か月連続、ドラッグストア（同 4.4%増）が22か月連続、ホームセンター（同 2.0%増）が2か月ぶりに前年実績を上回った。

<最近の動き>

	28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
販売額(百万円)	35,269	72,320	69,029	61,540	64,309	62,796	73,732	63,347
前年同月比(%)	3.4	4.1	▲0.4	2.2	2.7	2.4	2.0	2.7
うち 家電大型専門店(%)	7.1	0.1	▲11.7	2.5	4.3	▲0.7	▲1.9	▲2.0
コンビニエンスストア(%)	—	3.8	1.3	3.2	3.7	3.2	3.8	3.5
ドラッグストア(%)	3.9	5.6	3.5	3.1	2.0	2.6	4.6	4.4
ホームセンター(%)	▲1.0	6.7	▲2.5	▲3.8	▲0.2	1.7	▲3.8	2.0
(参考)全国前年同月比(%)	3.4	4.1	0.2	2.6	3.6	2.6	2.3	2.7

(注1) 販売額、前年同月比は店舗数未調整

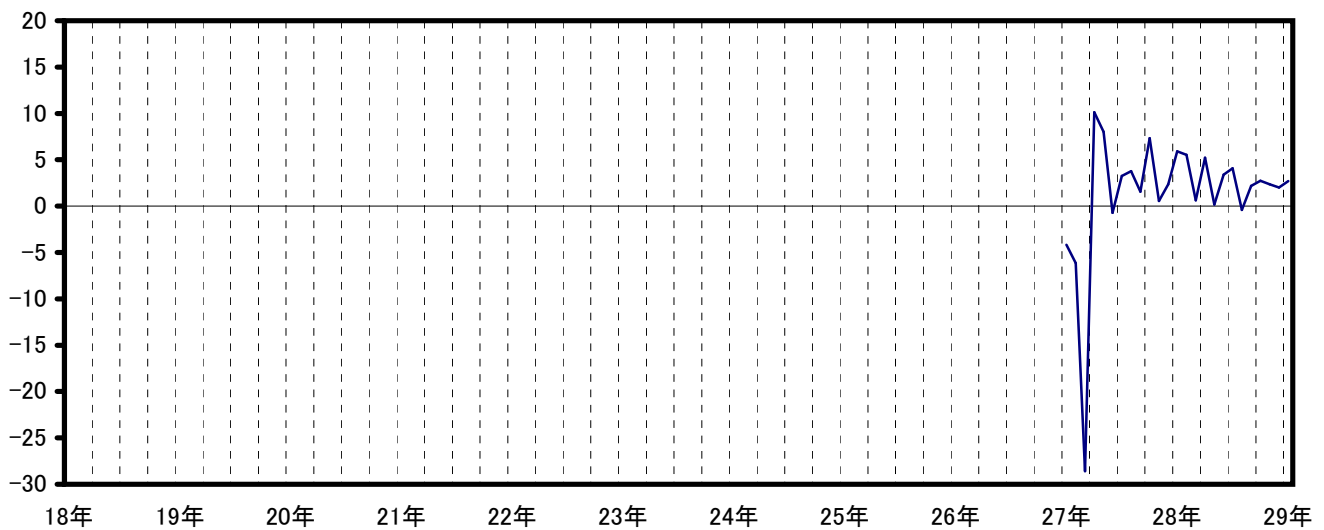
<資料>経済産業省

(注2) 平成28年7月からコンビニエンスストアの販売額を追加

<過去10年間の推移>

専門量販店等販売額前年同月比(%)

<資料>経済産業省



(4) 自動車(新車)新規登録台数

1 月 = 14,916 台

*前年同月比： 1.1%増

(乗用車、軽自動車合計)

<概況>

1月の自動車(新車)新規登録台数は14,916台(前年同月比 1.1%増)となり、3か月連続で前年実績を上回った。

車種別にみると、軽自動車(同 9.1%減)が4か月連続で前年実績を下回ったものの、乗用車(同 9.9%増)が6か月連続で前年実績を上回った。

<最近の動き>

	28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
登録台数(台)	14,201	13,630	11,137	16,342	12,513	13,638	13,544	14,916
前年同月比(%)	▲ 3.5	▲ 4.1	2.3	2.8	▲ 2.8	4.6	2.7	1.1
(参考)全国前年同月比(%)	▲ 5.6	▲ 2.2	2.9	▲ 0.7	▲ 0.1	8.8	8.1	4.4

<資料>県税務課、日本自動車販売協会連合会

<車種別(新車)新規登録台数前年同月比の推移>

(単位：%)

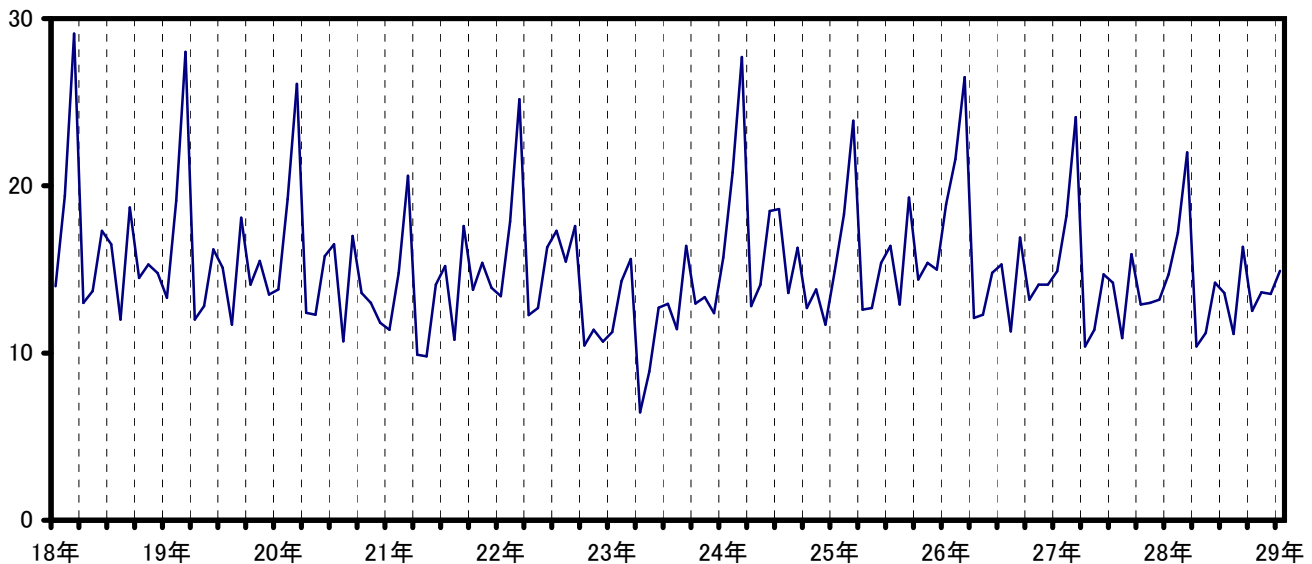
	28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
全乗用車	▲ 3.5	▲ 4.1	2.3	2.8	▲ 2.8	4.6	2.7	1.1
乗用車	5.5	▲ 1.1	3.3	3.8	0.2	11.7	8.7	9.9
軽自動車	▲ 14.3	▲ 8.0	1.0	1.7	▲ 6.6	▲ 3.8	▲ 4.8	▲ 9.1

<資料>県税務課

<過去10年間の推移>

自動車(新車)新規登録台数(千台)

<資料>県税務課



(注)全国前年同月比は乗用車+軽乗用車

2 新設住宅着工戸数

1 月 = 1,645 戸

*前年同月比： 6.2%減

<概況>

1月の新設住宅着工戸数は1,645戸で、前年同月比 6.2%減となり、2か月ぶりに前年実績を下回った。

利用関係別にみると、分譲住宅（前年同月比 32.0%増）が3か月ぶりに前年実績を上回ったものの、持家（同 2.4%減）が2か月ぶり、貸家（同 24.7%減）が3か月ぶりに前年実績を下回った。

<最近の動き>

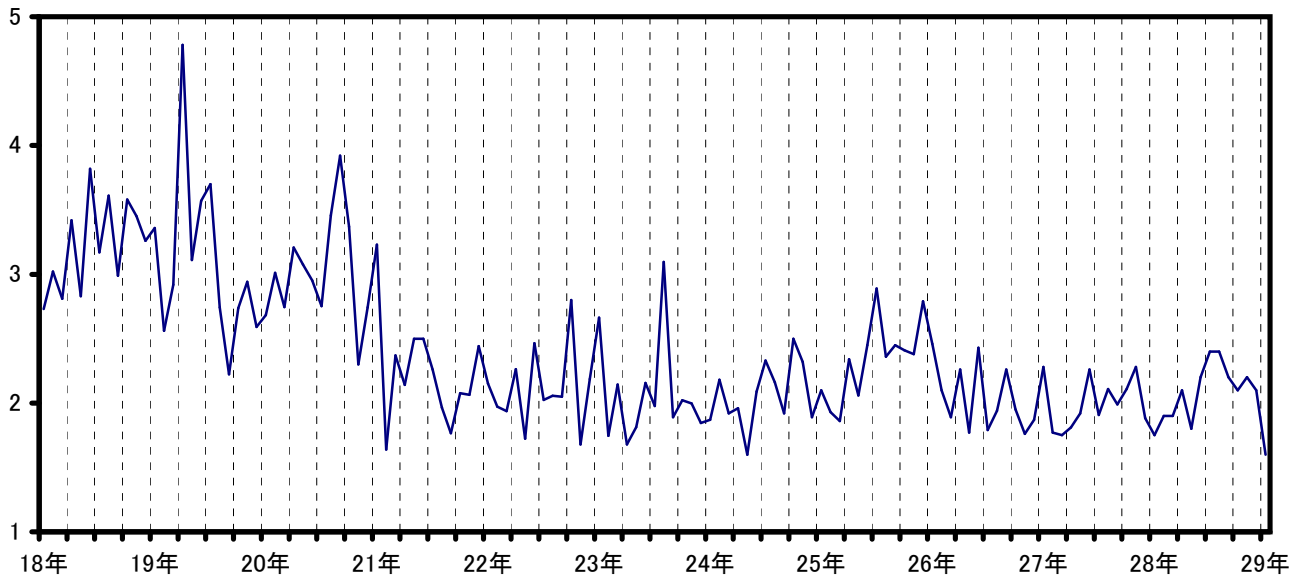
	28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
戸数 (戸)	2,195	2,356	2,405	2,179	2,084	2,213	2,073	1,645
前年同月比 (%)	▲ 2.7	23.5	14.3	9.7	▲ 1.4	▲ 2.9	10.1	▲ 6.2
うち持家 (%)	▲ 12.5	13.9	7.4	6.0	▲ 3.9	▲ 14.5	7.3	▲ 2.4
貸家 (%)	▲ 6.5	28.3	10.9	63.3	▲ 14.4	19.4	28.0	▲ 24.7
分譲住宅 (%)	24.4	53.0	50.4	▲ 43.9	48.3	▲ 3.6	▲ 1.3	32.0
(参考)全国前年同月比 (%)	▲ 2.5	8.9	2.5	10.0	13.7	6.7	3.9	12.8

<資料>県住まいづくり課

<過去10年間の推移>

新設住宅着工戸数(千戸)

<資料>県住まいづくり課



3 公共工事請負金額

1月 = 10,454百万円

*前年同月比：16.6%増

(建設保証会社保証実績)

<概況>

1月の公共工事の請負金額(工事場所ベース)は10,454百万円で、前年同月比16.6%増となり、2か月連続で前年実績を上回った。また、取扱い件数(工事場所ベース)は434件で、前年同月比1.6%減となり、4か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

	28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
金額(百万円)	22,745	28,013	29,515	50,377	19,292	14,204	16,623	10,454
前年同月比(%)	▲5.4	▲7.1	14.8	47.9	▲40.0	▲10.0	8.2	16.6
年度累計前年同月比(%)	6.0	2.6	4.8	13.1	4.9	3.9	4.2	4.6
件数(件)	631	818	885	1,445	657	657	772	434
前年同月比(%)	5.9	▲5.1	11.7	27.4	▲30.1	▲11.7	▲4.1	▲1.6
年度累計前年同月比(%)	5.8	1.7	4.3	10.5	3.1	1.2	0.6	0.4

<資料>東日本建設業保証(株)静岡支店

<発注者別請負金額前年同月比の推移>

(単位：%)

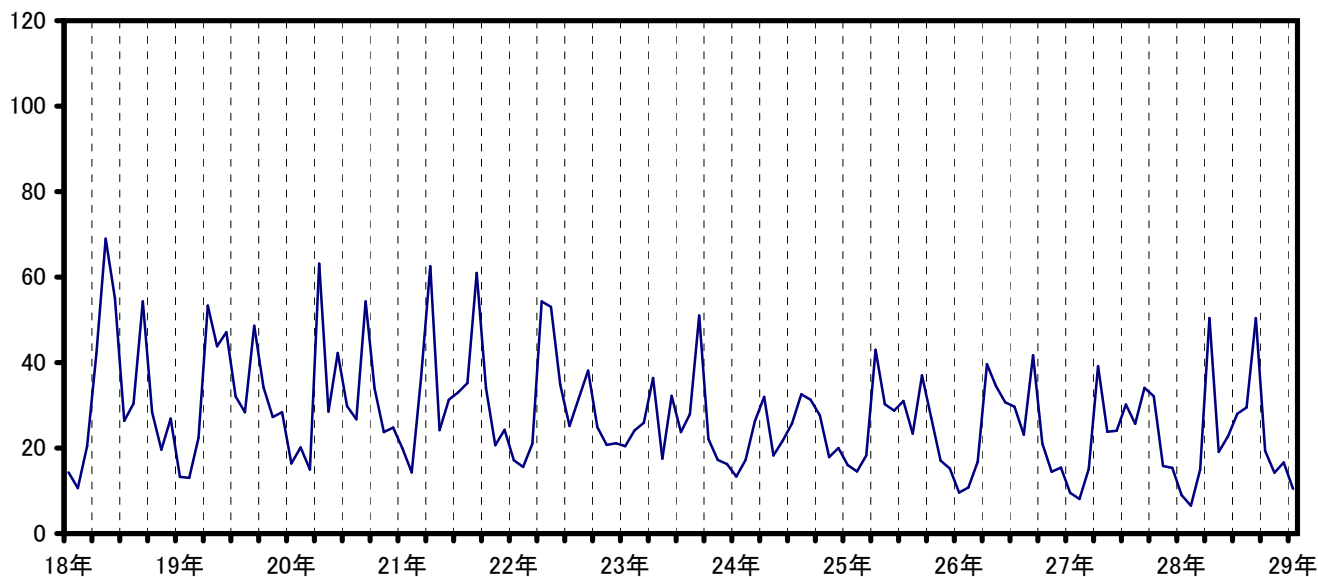
	28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
国	▲64.0	▲47.0	121.1	162.8	▲55.6	▲35.0	54.0	110.8
独立行政法人等	40.3	210.7	▲98.3	578.0	▲37.1	291.0	649.2	72.5
県	▲3.0	▲30.4	44.7	20.0	1.9	5.5	▲24.0	19.1
市町	10.0	10.8	0.0	41.9	▲42.0	▲20.6	12.7	▲23.0
地方公社	—	—	▲41.9	▲43.5	292.5	▲62.4	8.7	—
その他	0.8	▲16.6	11.3	▲63.5	▲93.3	▲10.3	▲0.3	197.5

<資料>東日本建設業保証(株)静岡支店

<過去10年間の推移>

公共工事請負金額(十億円)

<資料>東日本建設業保証(株)静岡支店



4 設備投資

<概況>

平成27年度の設備投資（実績）は、製造業（前年度比 17.1%増）、非製造業（同 1.8%増）ともに増加したことから、全産業（同 9.6%増）でも増加となった。

平成28年度の設備投資（計画）は、製造業（前年度比 8.4%増）、非製造業（同 0.7%増）ともに増加、全産業（同 4.9%増）でも増加する計画となっている。

1月の着工建築物床面積（非居住用）は154,653㎡で、前年同月比 7.6%増となり、3か月連続で前年実績を上回った。

<企業短期経済観測調査結果>

（前年度比% （ ）内は前回調査比修正率）

		27年度 (実績)	28年度 (計画)		28年度 (計画)	28年度 (計画)	
			上期 (実績)	下期 (実績)		上期 (実績)	下期 (計画)
全産業	県	9.6	13.4	6.5	(▲1.8) 4.9	(▲2.1) 1.9	(▲1.5) 7.4
	全国	5.0	4.2	5.6	(0.2) 1.8	(▲5.4) 2.5	(4.9) 1.3
製造業	県	17.1	22.7	13.2	(▲4.7) 8.4	(▲7.8) ▲0.5	(▲2.7) 15.0
	全国	9.1	7.1	10.7	(▲0.5) 5.6	(▲8.1) 4.6	(6.0) 6.3
非製造業	県	1.8	5.3	▲1.3	(2.3) 0.7	(4.1) 4.3	(0.4) ▲2.9
	全国	2.9	2.7	3.1	(0.6) ▲0.1	(▲3.8) 1.5	(4.3) ▲1.3

<資料>日本銀行静岡支店「静岡県の企業短期経済観測調査結果(平成28年12月調査)」

日本銀行調査統計局「全国企業短期経済観測調査」(平成28年12月調査)」

<最近の動き>

	28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
着工建築物床面積（非居住用）（㎡）	99,402	108,356	186,104	171,169	77,988	142,379	107,916	154,653
前年同月比（%）	▲25.2	10.6	105.9	35.1	▲45.6	29.2	24.3	7.6
(参考) 全国前年同月比（%）	4.2	▲19.1	16.7	10.8	▲3.7	10.4	5.4	21.9

(注) 着工建築物床面積は公共と民間の合計のうち、非居住用

<資料>国土交通省

<参考 県内企業の業況判断D. I. >

	28年9月	28年12月	29年3月 (予測)
全産業	1	8	0
製造業	0	7	4
非製造業	3	10	▲4
(参考) 全国・全産業	5	7	2

(注) 業況判断D. I. : 「良い」-「悪い」回答社数構成比%ポイント

<資料> 日本銀行静岡支店「静岡県の企業短期経済観測調査結果(平成28年12月調査)」

5 輸出

1月 = 149,186百万円

*前年同月比： 3.9%増

(清水税関支署管内通関実績)

<概況>

1月の清水税関支署管内の輸出総額は149,186百万円で、前年同月比 3.9%増となり、3か月連続で前年実績を上回った。

主要な品目別にみると、原動機（前年同月比 8.5%減）が3か月ぶり、科学光学機器（同 6.6%減）が2か月ぶりに前年実績を下回ったものの、エアコン（同 4.3%増）が5か月ぶり、自動車（同 66.5%増）が3か月連続、自動車の部分品（同 12.0%増）が5か月連続、二輪自動車類（同 3.0%増）が2か月ぶりに前年実績を上回った。

地域別にみると、米国向け（前年同月比 8.4%減）が2か月ぶりに前年実績を下回ったものの、アジア向け（同 7.8%増）が3か月連続、EU向け（同 24.9%増）が2か月ぶりに前年実績を上回った。

<最近の動き>

	28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
輸出総額(百万円)	156,025	160,716	145,084	164,289	157,569	163,347	188,985	149,186
前年同月比(%)	▲ 7.7	▲ 11.7	▲ 8.9	▲ 3.0	▲ 8.6	5.9	5.3	3.9

<資料>清水税関支署

<主要品目別前年同月比の推移>

(単位:%)

	28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
原動機	▲ 1.6	▲ 1.2	2.7	▲ 5.5	▲ 11.6	11.8	6.1	▲ 8.5
エアコン	▲ 6.7	20.5	28.9	▲ 11.9	▲ 11.1	▲ 3.4	▲ 12.1	4.3
自動車	▲ 1.2	▲ 38.7	▲ 41.0	87.9	▲ 17.1	26.8	65.0	66.5
自動車の部分品	▲ 9.3	▲ 8.7	▲ 2.8	11.2	1.3	15.4	10.2	12.0
二輪自動車類	▲ 11.1	▲ 9.2	▲ 27.0	▲ 29.3	▲ 3.3	16.5	▲ 0.8	3.0
科学光学機器	10.0	▲ 24.6	▲ 12.2	▲ 10.4	▲ 14.6	▲ 5.6	6.7	▲ 6.6

<資料>清水税関支署

<地域別前年同月比の推移>

(単位:%)

	28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
アジア	▲ 2.1	▲ 13.7	1.0	4.7	▲ 5.6	11.2	10.2	7.8
米国	▲ 7.1	▲ 5.4	▲ 14.7	▲ 7.0	▲ 6.4	▲ 7.3	13.3	▲ 8.4
EU	▲ 7.6	4.0	1.7	0.3	0.1	32.2	0.0	24.9

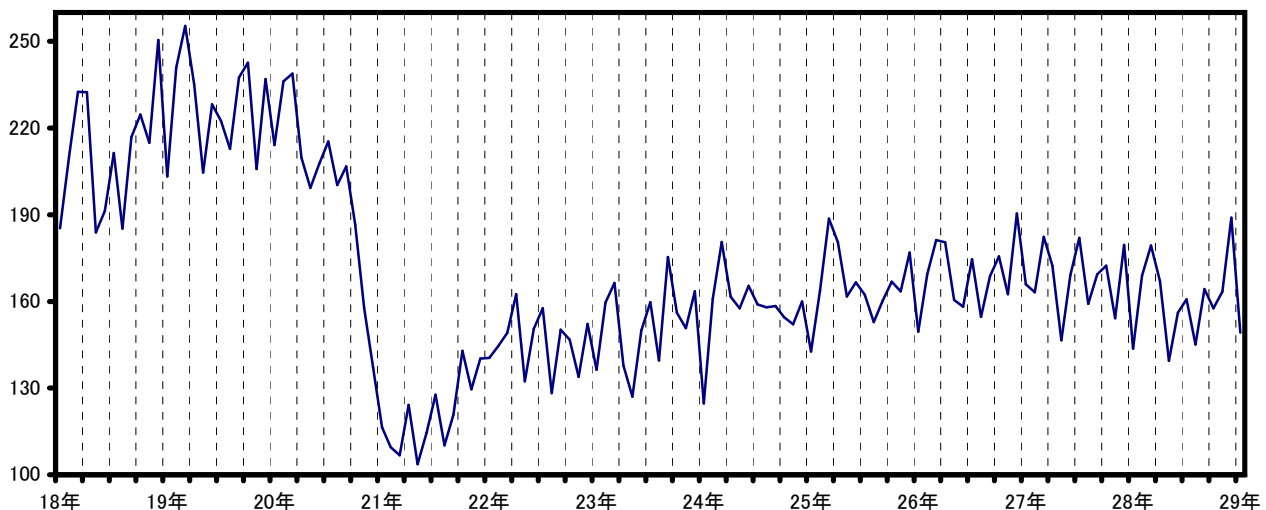
<資料>清水税関支署

(注)管内とは、清水港(焼津、沼津、浜松、興津の各出張所及び下田監視所含む)、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4つをいう。なお、数値は、通関手続きが行われた金額である。輸入も同様。

<過去10年間の推移>

清水税関支署管内通関実績輸出額(十億円)

<資料>清水税関支署



6 輸入

1月 = 84,521百万円

*前年同月比： 2.3%減

(清水税関支署管内通関実績)

<概況>

1月の清水税関支署管内の輸入総額は84,521百万円で、前年同月比 2.3%減となり、2か月連続で前年実績を下回った。

主要な品目別にみると、原動機（前年同月比 58.1%増）が3か月連続で前年実績を上回ったものの、木材（同 9.5%減）、パルプ（同 11.1%減）がいずれも13か月連続、紙類及び同製品（同 3.0%減）が3か月ぶり、自動車の部分品（同 29.1%減）が2か月連続で前年実績を下回った。また、魚介類（同 4.9%減）も前年実績を下回った。

地域別では、アジアから（前年同月比 0.3%減）、米国から（同 17.1%減）がいずれも2か月ぶり、EUから（同 12.6%減）が2か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

	28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
輸入総額(百万円)	70,881	67,656	75,303	73,505	70,550	81,973	77,139	84,521
前年同月比(%)	▲ 13.3	▲ 21.5	▲ 4.5	▲ 9.8	▲ 17.0	0.4	▲ 1.5	▲ 2.3

<資料>清水税関支署

<主要品目別前年同月比の推移>

(単位:%)

	28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
魚介類	—	—	—	—	—	—	—	▲ 4.9
木材	▲ 15.0	▲ 19.8	▲ 8.3	▲ 7.5	▲ 13.1	▲ 30.0	▲ 16.0	▲ 9.5
パルプ	▲ 27.5	▲ 45.8	▲ 23.9	▲ 13.3	▲ 27.8	▲ 46.8	▲ 6.7	▲ 11.1
紙類及び同製品	24.8	▲ 3.9	1.1	30.2	▲ 6.7	2.6	23.2	▲ 3.0
原動機	53.7	45.7	169.5	13.1	▲ 6.4	15.8	76.1	58.1
自動車の部分品	▲ 26.3	▲ 42.5	▲ 0.3	▲ 1.7	▲ 28.5	13.5	▲ 7.9	▲ 29.1

<資料>清水税関支署

<地域別前年同月比の推移>

(単位:%)

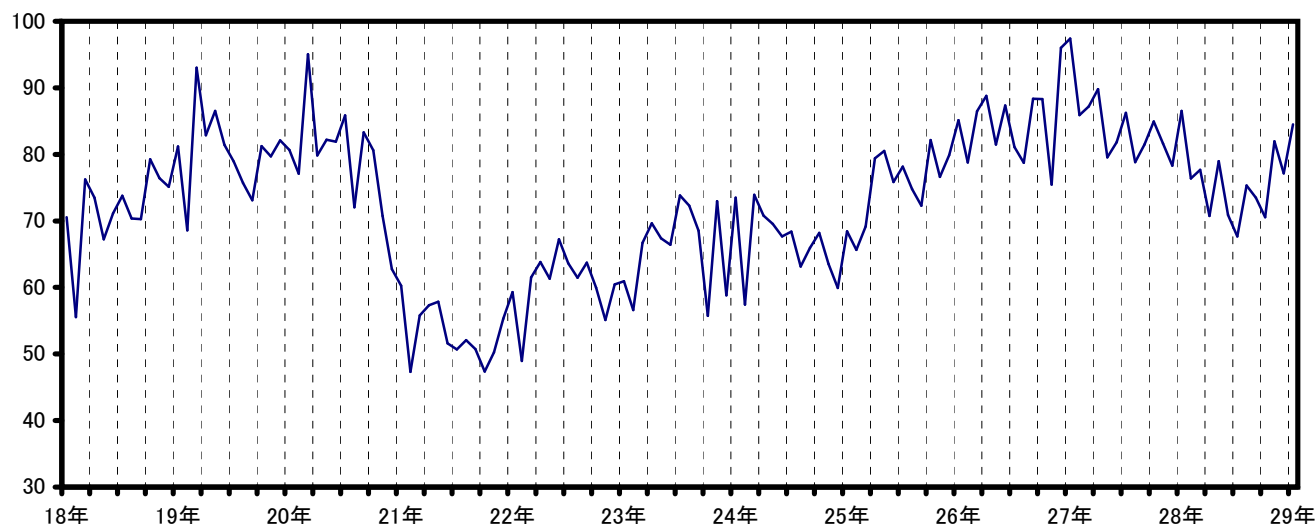
	28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
アジア	▲ 10.5	▲ 16.8	0.2	▲ 8.7	▲ 19.6	▲ 5.9	4.4	▲ 0.3
米国	▲ 10.0	▲ 25.9	▲ 9.4	▲ 22.6	▲ 16.6	▲ 28.2	17.5	▲ 17.1
EU	▲ 23.1	▲ 7.8	▲ 4.4	▲ 31.7	▲ 1.7	6.1	▲ 10.4	▲ 12.6

<資料>清水税関支署

<過去10年間の推移>

清水税関支署管内通関実績輸入額(十億円)

<資料>清水税関支署



生 産 面

1 生 産

(1) 鉱工業生産指数

12月 = 92.5

(平成22年=100、鉱工業総合、季節調整済指数)

*前月比(季節調整済指数) : 3.6%増

*前年同月比(原指数) : 4.4%減

<概況>

12月の鉱工業生産指数(総合)は92.5(季節調整済指数)で、前月比3.6%増となり、2か月連続で上昇した。また、前年同月比(原指数)は4.4%減と4か月連続で前年を下回った。業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(前年同月比3.1%増)が4か月ぶり、電気機械(同7.0%増)が2か月連続、輸送機械(同3.7%増)が22か月ぶりに前年水準を上回ったものの、化学(同31.2%減)が3か月連続、パルプ・紙・紙加工品(同3.0%減)、食料品・たばこ(同10.2%減)がいずれも4か月連続で前年水準を下回った。

<最近の動き>

	28年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
指数	86.8	88.8	88.3	90.0	89.7	86.9	89.3	92.5
前月比(%)	▲6.7	2.3	▲0.6	1.9	▲0.3	▲3.1	2.8	3.6
前年同月比(%)	▲0.4	▲4.1	▲5.4	4.5	▲1.2	▲5.8	▲0.9	▲4.4
(参考)全国前年同月比(%)	▲0.1	▲1.9	▲3.8	4.6	0.9	▲1.3	4.6	3.0

(注)平成22年=100、鉱工業総合、指数:季節調整済、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課、経済産業省

<県内業種別鉱工業生産指数前年同月比の推移>

(単位:%)

	28年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
はん用・生産用・業務用機械工業	▲3.4	3.1	▲4.6	11.5	▲4.1	▲12.5	▲5.9	3.1
電気機械工業	7.5	7.1	2.5	15.9	2.2	▲9.6	3.2	7.0
輸送機械工業	▲8.9	▲15.1	▲11.9	▲4.0	▲7.3	▲9.5	▲0.3	3.7
化学工業	17.3	5.8	▲4.8	8.7	6.4	▲1.8	▲4.6	▲31.2
パルプ・紙・紙加工品工業	▲0.4	▲4.3	▲3.2	6.7	▲3.0	▲1.0	▲3.7	▲3.0
食料品・たばこ工業	▲3.9	▲10.6	▲4.9	1.3	▲1.2	▲5.2	▲3.8	▲10.2

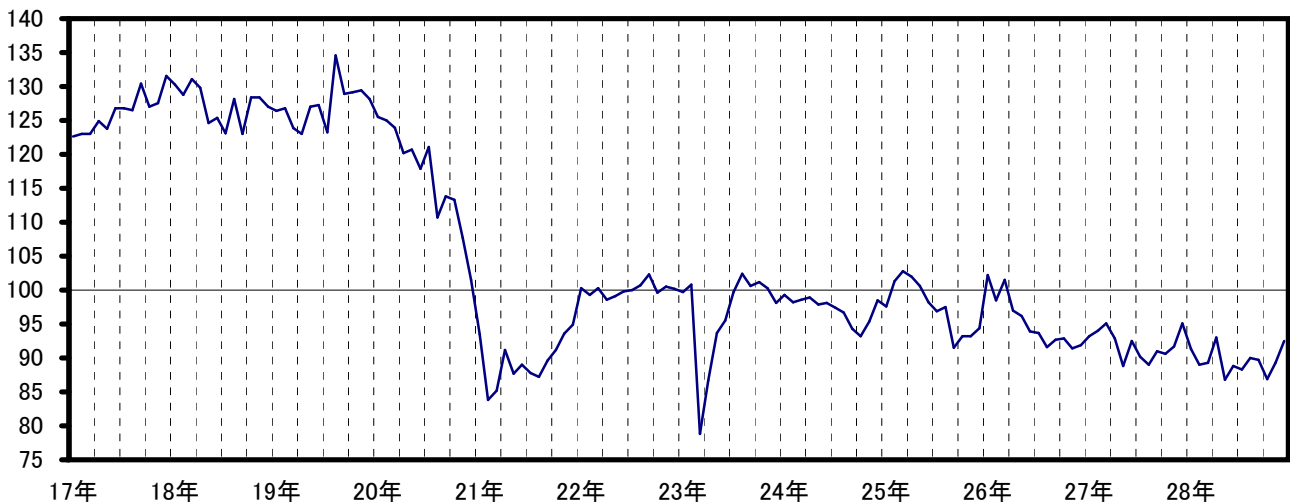
(注)平成22年=100、鉱工業総合、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課

<過去10年間の推移>

鉱工業生産指数(総合、平成22年=100)

<資料>県統計調査課



(2) 鋳工業在庫指数

12月 = 109.2

(平成22年=100、鋳工業総合、季節調整済指数)

*前月比(季節調整済指数) : 3.2%減

*前年同月比(原指数) : 11.3%減

<概況>

12月の鋳工業在庫指数(総合)は109.2(季節調整済指数)で、前月比は3.2%減と5か月連続して低下した。また、前年同月比(原指数)は11.3%減と4か月連続で前年を下回った。

なお、在庫動向を在庫循環図でみると、今月は「意図せざる在庫減局面(景気拡大初期)」に該当する。

業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(前年同月比18.7%増)が9か月連続で前年水準を上回ったものの、電気機械(同18.2%減)、化学(同12.6%減)がいずれも4か月連続、輸送機械(同51.6%減)が9か月連続、パルプ・紙・紙加工品(同1.4%減)が5か月ぶり、食料品・たばこ(同7.3%減)が3か月連続で前年水準を下回った。

<最近の動き>

	28年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
指数	118.2	116.4	119.5	119.3	115.7	114.7	112.8	109.2
前月比(%)	▲3.0	▲1.5	2.7	▲0.2	▲3.0	▲0.9	▲1.7	▲3.2
前年同月比(%)	6.0	0.0	4.1	2.1	▲2.0	▲4.8	▲7.3	▲11.3
(参考)全国前年同月比(%)	0.6	0.0	▲1.8	▲1.8	▲2.0	▲3.0	▲4.8	▲5.0

(注)平成22年=100、鋳工業総合、指数:季節調整済、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課、経済産業省

<県内業種別鋳工業在庫指数前年同月比の推移>

(単位:%)

	28年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
はん用・生産用・業務用機械工業	2.4	0.4	6.0	0.8	6.6	7.1	13.0	18.7
電気機械工業	14.6	25.5	26.9	21.3	▲8.5	▲16.5	▲20.8	▲18.2
輸送機械工業	▲10.1	▲24.9	▲11.8	▲19.6	▲34.2	▲42.2	▲46.9	▲51.6
化学工業	4.2	1.3	3.5	0.1	▲1.6	▲3.5	▲4.2	▲12.6
パルプ・紙・紙加工品工業	1.8	▲4.2	▲3.1	1.5	0.0	7.2	0.5	▲1.4
食料品・たばこ工業	▲9.5	▲12.0	▲2.8	▲9.0	0.4	▲3.5	▲7.2	▲7.3

(注)平成22年=100、鋳工業総合、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課

<過去10年間の推移>

鋳工業在庫指数(総合、平成22年=100)

<資料>県統計調査課



雇 用 面

1 雇 用

(1) 有効求人倍率

1 月 = 1.43倍

*前月比 (季節調整値) : 0.02ポイント増

(季節調整値、学卒を除き、パートタイムを含む)

<概 況>

1月の有効求人倍率(季節調整値、学卒を除き、パートタイムを含む)は1.43倍となり、前月を0.02ポイント上回った。また、全国値と同水準となった。新規求人(学卒、パートタイムを除く)(前年同月比10.3%増)は12か月連続で前年実績を上回った。

産業別にみると、情報通信業(前年同月比19.8%減)が2か月ぶりに前年実績を下回ったものの、建設業(同13.5%増)が12か月連続、製造業(同12.0%増)が15か月連続、運輸業・郵便業(同17.1%増)が3か月連続、卸売業・小売業(同4.9%増)が2か月ぶり、医療・福祉(同9.4%増)が5か月連続、サービス業(他に分類されないもの)(同15.9%増)が11か月連続で前年実績を上回った。

<最近の動き>

(単位:倍)

	28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
県	1.35	1.36	1.35	1.37	1.38	1.40	1.41	1.43
全 国	1.36	1.37	1.37	1.38	1.40	1.41	1.43	1.43

(注)季節調整値、学卒を除き、パートタイムを含む

<資料>厚生労働省

<産業別新規求人前年同月比の推移>

(単位:%)

	28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
建 設 業	5.1	3.4	6.0	8.7	1.9	14.3	5.6	13.5
製 造 業	6.6	2.8	16.7	27.5	20.9	15.7	16.5	12.0
情 報 通 信 業	▲14.8	▲12.5	▲52.6	▲28.7	▲39.2	▲13.2	2.2	▲19.8
運 輸 業 ・ 郵 便 業	▲5.9	7.6	3.9	2.4	▲3.7	18.8	1.0	17.1
卸 売 業 ・ 小 売 業	6.6	11.5	57.1	▲10.9	19.0	2.6	▲5.0	4.9
医 療 ・ 福 祉	▲0.5	7.2	▲3.9	1.6	13.5	10.2	7.2	9.4
サービス業(他に分類されないもの)	13.0	3.0	29.9	2.2	12.9	62.7	21.6	15.9
合 計	2.4	3.7	11.0	4.2	7.9	16.4	9.0	10.3

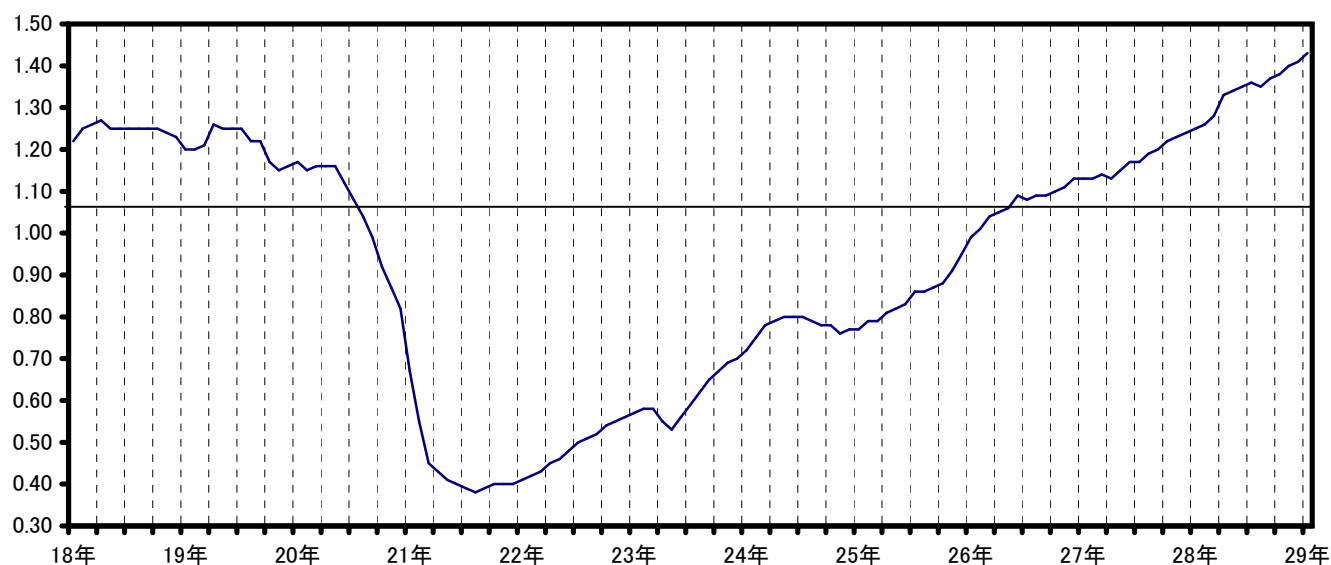
(注)学卒、パートタイムを除く

<資料>厚生労働省

<過去10年間の推移>

有効求人倍率(学卒を除き、パートタイムを含む)(倍)

<資料>厚生労働省



(2) 雇用保険受給者実人員

1月 = 10,725人

*前月比: 1.8%減

*前年同月比: 14.4%減

<概況>

1月の雇用保険受給者実人員は10,725人で、前月比は1.8%減と5か月連続で前月を下回った。また、前年同月比は14.4%減と42か月連続で前年実績を下回った。

完全失業率(全国)は3.0%で、前月から0.1ポイント改善した。

静岡県(平成28年10~12月)の完全失業率は2.5%で、前期(28年7~9月)から0.1ポイント悪化した。

<最近の動き>

	28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
実人員(人)	12,519	12,580	13,302	12,696	12,170	11,593	10,924	10,725
前月比(%)	4.7	0.5	5.7	▲4.6	▲4.1	▲4.7	▲5.8	▲1.8
前年同月比(%)	▲14.0	▲15.9	▲10.2	▲12.7	▲11.5	▲10.8	▲11.3	▲14.4
(参考)全国前年同月比(%)	▲7.5	▲10.5	▲3.7	▲8.0	▲9.3	▲7.9	▲9.3	▲8.6

<資料>厚生労働省

<参考 完全失業率(全国)の推移>

	28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
完全失業率(全国)(%)	3.1	3.0	3.1	3.0	3.0	3.1	3.1	3.0

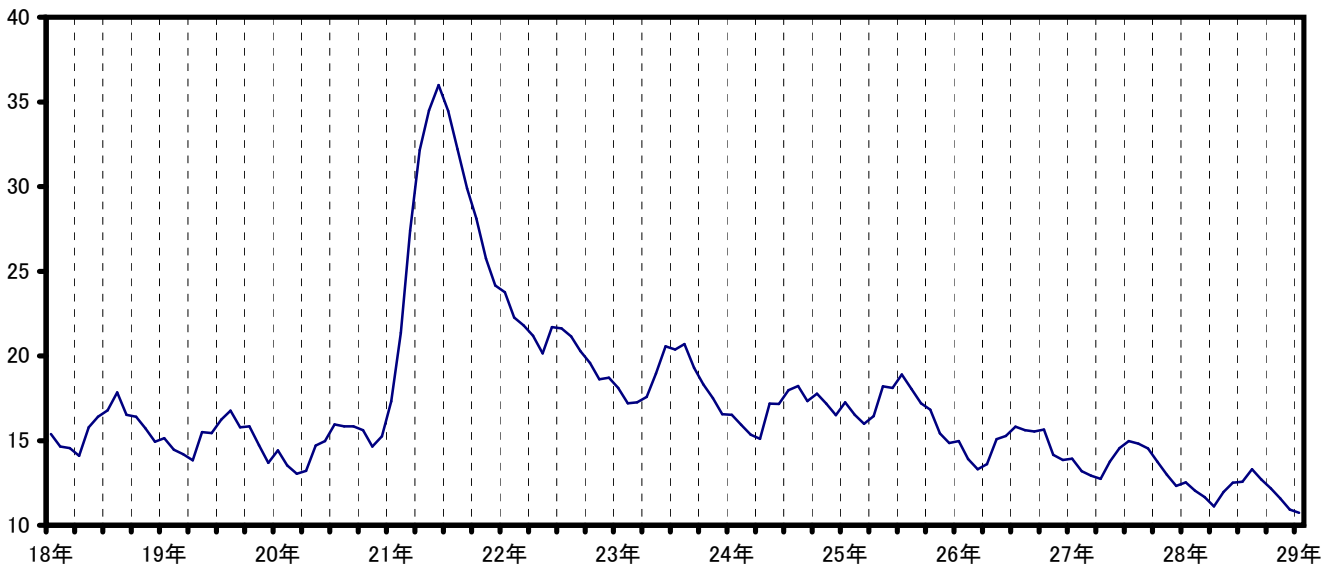
(注)季節調整値

<資料>総務省統計局

<過去10年間の推移>

雇用保険受給者実人員(千人)

<資料>厚生労働省



(3) 所定外労働時間指数

12月 = 109.2

*前月比(季節調整済指数): 2.0%減

(平成22年=100、事業所規模30人以上、調査産業計、季節調整済) *前年同月比(原指数) : 0.7%減

<概況>

12月の所定外労働時間指数(事業所規模30人以上、調査産業計)は109.2(季節調整済指数)で、前月比2.0%減となった。また、前年同月比(原指数)は0.7%減となり、2か月連続で前年実績を下回った。

業種別にみると、製造業(前年同月比2.6%増)、医療・福祉(同7.0%増)がいずれも3か月ぶりに前年実績を上回ったものの、建設業(同14.7%減)が2か月連続、情報通信業(同6.1%減)が4か月連続、運輸業・郵便業(同6.5%減)が3か月連続、卸売業・小売業(同24.7%減)が6か月連続、その他のサービス業(同6.3%減)が3か月ぶりに前年実績を下回った。

<最近の動き>

	28年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
指数	115.5	114.8	112.8	105.9	111.6	113.6	111.4	109.2
前月比(%)	2.7	▲0.6	▲1.7	▲6.1	5.4	1.8	▲1.9	▲2.0
前年同月比(%)	9.9	7.2	5.9	▲0.8	1.4	0.7	▲1.4	▲0.7
(参考)全国前年同月比(%)	▲2.4	▲0.8	▲1.6	▲2.5	▲1.6	▲1.5	▲1.5	▲2.2

*平成22年=100、事業所規模30人以上、調査産業計、指数:季節調整済指数、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課

<県内業種別所定外労働時間指数前年同月比の推移>

(単位:%)

	28年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
建設業	▲13.5	▲0.6	13.7	▲9.7	0.0	15.4	▲5.1	▲14.7
製造業	1.8	▲2.2	2.2	▲1.1	0.0	▲4.5	▲5.9	2.6
情報通信業	4.9	1.1	▲9.1	1.3	▲13.6	▲10.9	▲8.4	▲6.1
運輸業・郵便業	2.1	▲4.3	2.9	▲2.1	3.2	▲5.3	▲6.9	▲6.5
卸売業・小売業	15.5	0.0	▲26.8	▲17.6	▲29.6	▲31.1	▲34.2	▲24.7
医療・福祉	9.9	20.3	4.3	▲4.4	9.1	▲7.2	▲23.5	7.0
その他のサービス業	6.8	8.6	3.2	13.2	▲7.2	5.3	11.8	▲6.3
調査産業計	9.9	7.2	5.9	▲0.8	1.4	0.7	▲1.4	▲0.7

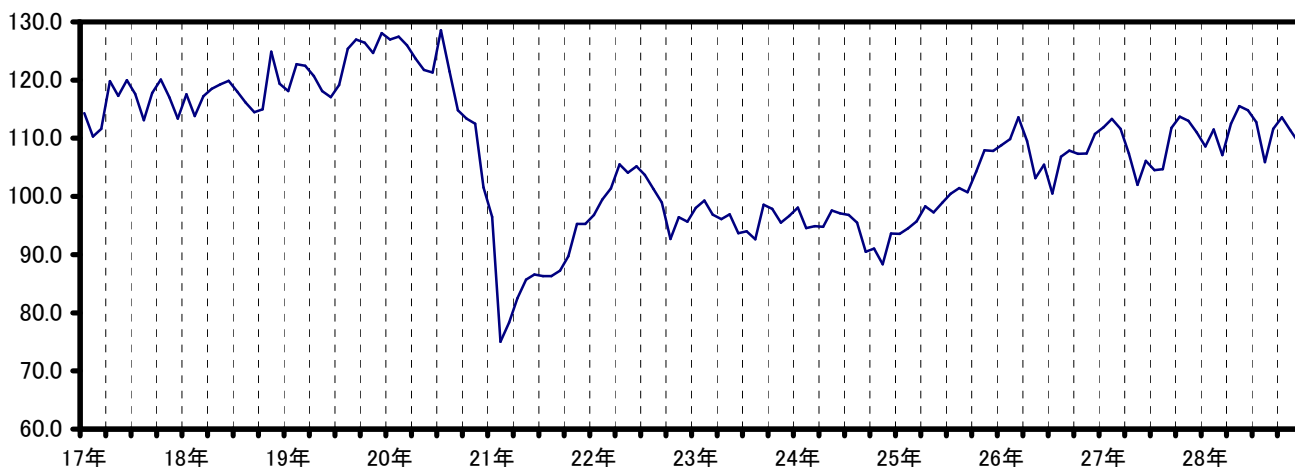
*平成22年=100、事業所規模30人以上、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課

<過去10年間の推移>

所定外労働時間指数(事業所規模30人以上、平成22年=100)

<資料>県統計調査課



そ の 他

1 物 価

国内企業物価指数

2 月 = 97.9

*前 月 比: 0.2%上昇

(平成27年=100)

*前年同月比: 1.0%上昇

<概 況>

2月の国内企業物価指数は97.9となり、前月比は0.2%の上昇となった。また、前年同月比は1.0%の上昇となった。

<最近の動き>

	28年7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月	2月
国内企業物価指数	96.3	96.0	96.1	96.0	96.4	97.1	97.7	97.9
前 月 比 (%)	▲ 0.1	▲ 0.3	0.1	▲ 0.1	0.4	0.7	0.6	0.2
前年同月比 (%)	▲ 4.2	▲ 3.8	▲ 3.3	▲ 2.7	▲ 2.3	▲ 1.2	0.5	1.0

*平成27年=100

<資料>日本銀行

2 金 融

(1) 県内金融機関貸出残高

1 月 = 137,805億円

*前 月 比: 0.9%減

(銀行、信用金庫)

*前年同月比: 1.3%増

<概 況>

1月末の県内の銀行と信用金庫の貸出残高は137,805億円で、前月比は0.9%の減少となり、前年同月比は1.3%の増加となった。

	28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
貸出残高(億円)	136,065	136,020	135,981	137,793	136,468	137,258	139,099	137,805
前 月 比 (%)	0.4	0.0	0.0	1.3	▲ 1.0	0.6	1.3	▲ 0.9
前年同月比 (%)	2.5	2.7	2.7	2.2	2.1	2.4	1.3	1.3

<資料>日本銀行静岡支店

(2) 貸出約定金利

1 月 = 2.129%

*前 月 差: 0.005ポイント増

(県内地銀4行総平均)

*前年同月差: 0.030ポイント減

<概 況>

1月の県内地銀4行総平均の貸出約定金利(総合)は2.129%で、前月から0.005ポイントのプラスとなった。なお、前年同月差は0.030ポイントのマイナスとなった。

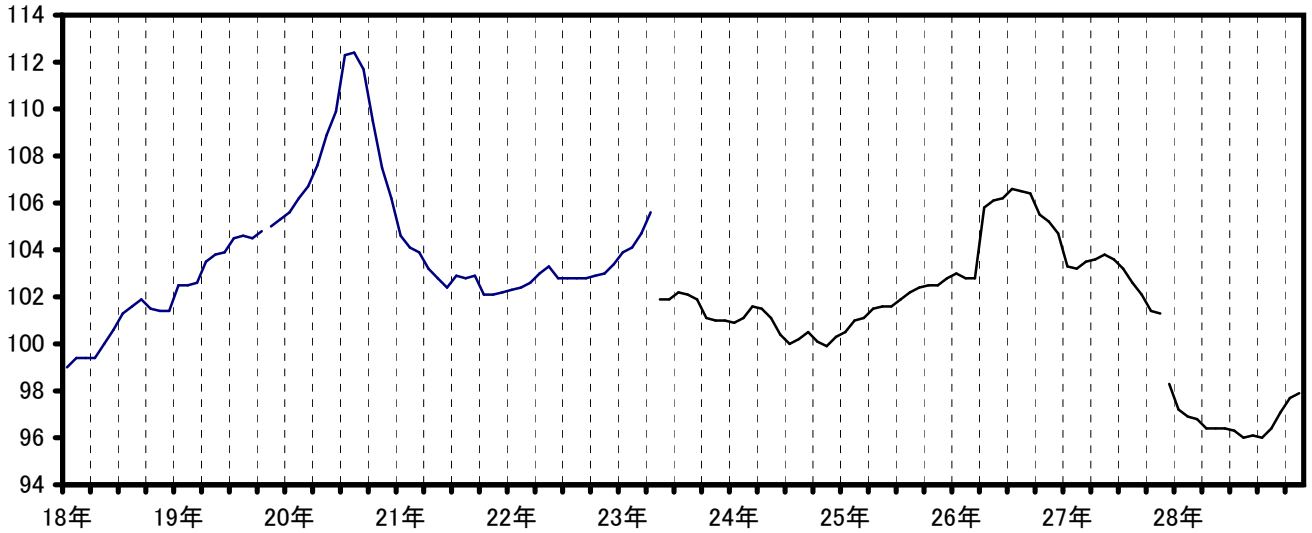
	28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
貸出約定金利(%)	2.153	2.155	2.154	2.144	2.152	2.146	2.124	2.129
前月差(ポイント)	0.001	0.002	▲ 0.001	▲ 0.010	0.008	▲ 0.006	▲ 0.022	0.005
前年同月差(ポイント)	0.000	▲ 0.004	▲ 0.008	▲ 0.004	▲ 0.014	▲ 0.022	▲ 0.026	▲ 0.030

<資料>日本銀行静岡支店

<過去10年間の推移>

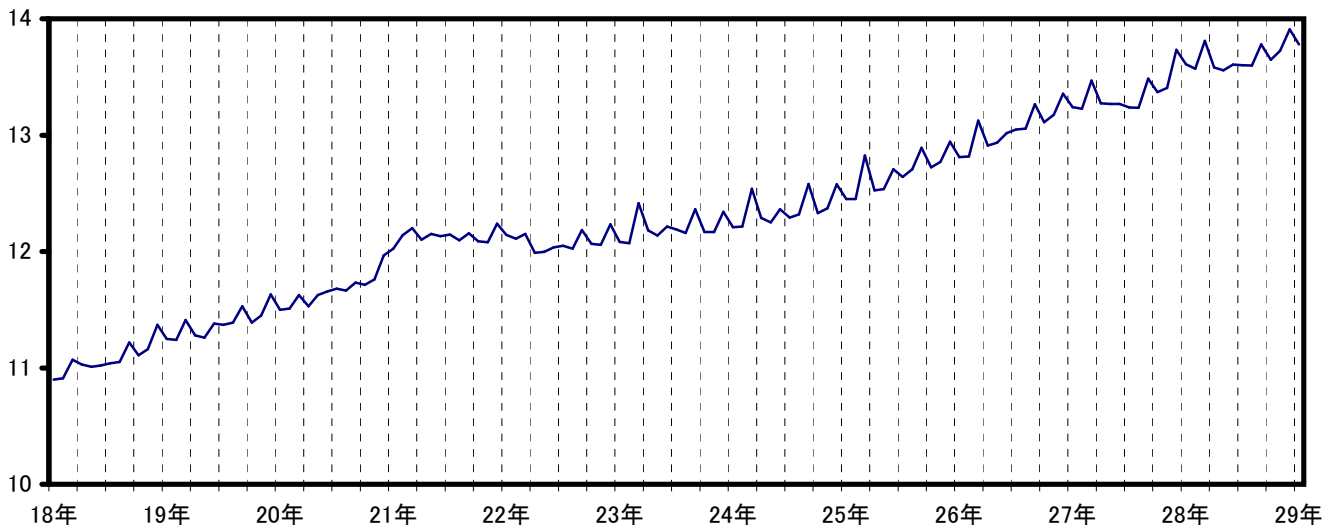
国内企業物価指数(平成27年=100)

<資料>日本銀行



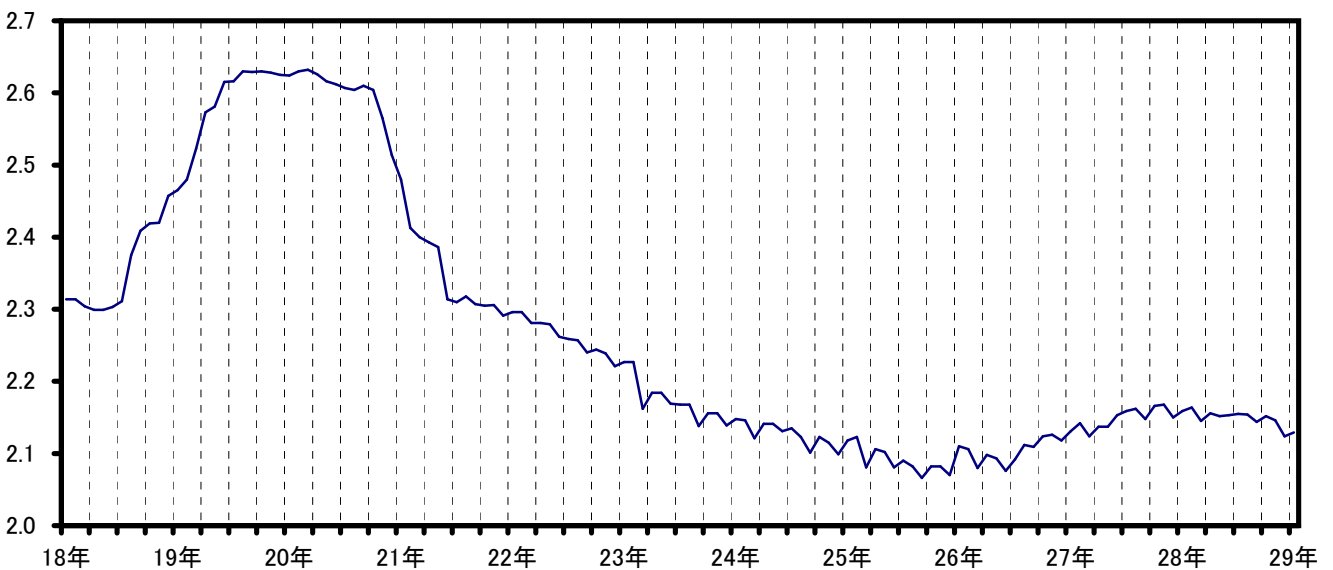
県内金融機関貸出残高(兆円)

<資料>日本銀行静岡支店



県内地銀平均貸出約定金利(%)

<資料>日本銀行静岡支店



(3) 信用保証協会保証金額**1月 = 14,049百万円**

*前年同月比： 8.3%減

<概況>

1月の保証承諾は、金額が14,049百万円（前年同月比 8.3%減）と2か月連続で前年実績を下回り、件数は1,504件（同 11.2%減）と22か月連続で前年実績を下回った。

<最近の動き>

	28年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
保証金額（百万円）	23,147	20,714	22,578	23,295	17,045	19,296	24,335	14,049
前年同月比（%）	▲ 3.5	▲ 5.9	10.9	▲ 10.1	▲ 14.2	0.0	▲ 9.4	▲ 8.3
保証件数（件）	2,324	2,009	2,172	2,319	1,781	1,888	2,363	1,504
前年同月比（%）	▲ 11.9	▲ 15.1	▲ 2.7	▲ 12.0	▲ 16.9	▲ 6.3	▲ 10.7	▲ 11.2

<資料>県信用保証協会

(4) 円相場**2月 = 113.06円/ドル**

*前月差： 1.67円高

（東京・銀行間直物中心・平均）

*前年同月差： 1.96円高

<概況>

2月の東京外国為替市場での対ドル平均円相場（銀行間直物）は113.06円で、前月と比べて1.67円の円高となり、2か月連続の円高となった。

<最近の動き>

	28年7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月	2月
平均相場（円）	103.90	101.27	102.04	103.82	108.18	115.95	114.73	113.06
前月差（円）	▲ 1.59	▲ 2.63	0.77	1.78	4.36	7.77	▲ 1.22	▲ 1.67
前年同月差（円）	▲ 19.33	▲ 21.96	▲ 18.18	▲ 16.24	▲ 14.36	▲ 5.89	▲ 3.52	▲ 1.96

▲…円高

（注）東京外国為替相場・銀行間直物中心相場・平均

3 企業経営**企業倒産件数****2月 = 18件**

*前年同月比： 33.3%減

<概況>

2月の負債総額 1,000万円以上の企業倒産件数は18件（前年同月比 33.3%減）と、前年実績を下回ったものの、負債総額は7,787百万円（同 164.0%増）と、前年実績を上回った。

原因別にみると、販売不振を原因とするいわゆる「不況型倒産」が17件と全体の94.4%を占め、231か月連続して50%以上となっている。

<最近の動き>

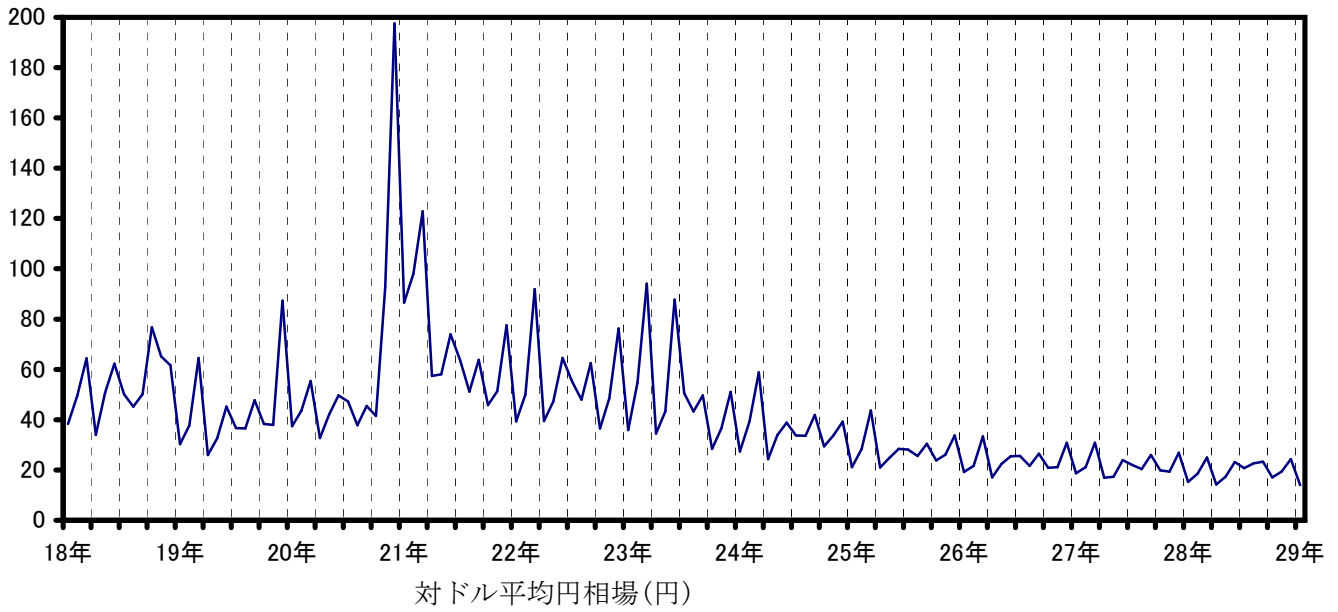
	28年7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月	2月
倒産件数（件）	36	19	22	13	19	35	16	18
前年同月比（%）	56.5	5.5	▲ 18.5	▲ 27.7	▲ 20.8	84.2	▲ 15.7	▲ 33.3
うち不況型倒産件数（件）	33	18	19	12	19	34	16	17
負債総額（百万円）	8,498	2,065	2,315	1,631	2,049	5,704	1,687	7,787
前年同月比（%）	113.2	8.7	▲ 30.7	▲ 54.5	▲ 61.8	60.7	▲ 46.1	164.0

<資料>（株）東京商工リサーチ静岡支社

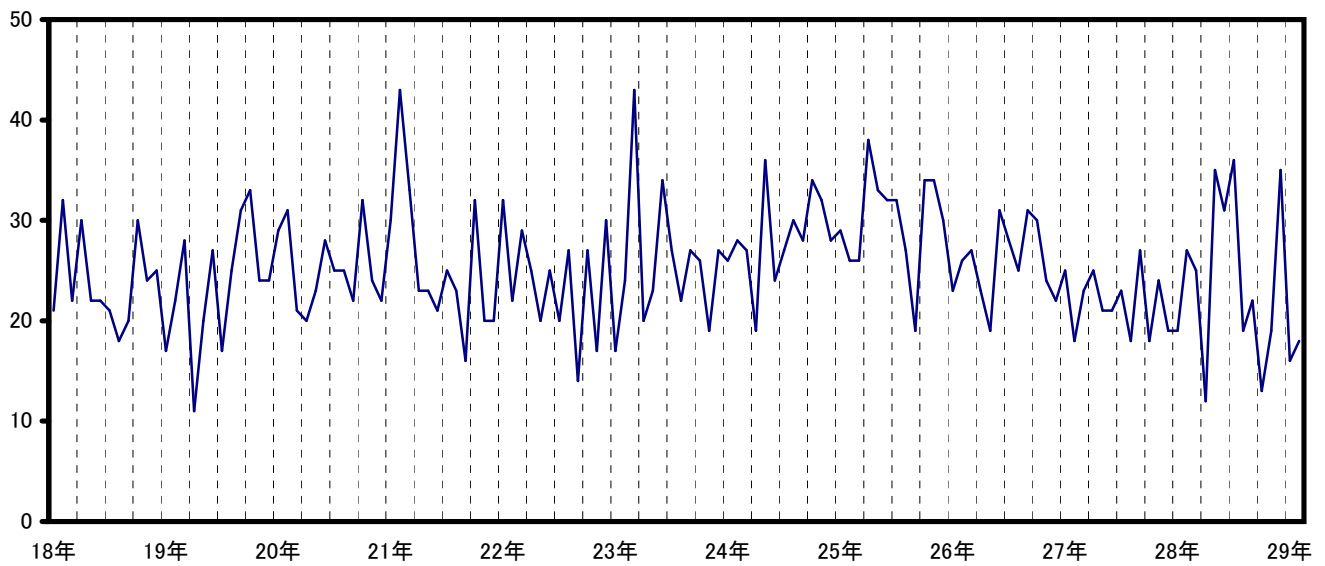
<過去10年間の推移>

信用保証協会保証承諾金額(十億円)

<資料>県信用保証協会



<資料>(株)東京商工リサーチ静岡支社



Ⅲ 平成29年1月を中心とした静岡県主要産業の動向

業 種	産 業 動 向
二 輪 車	<p>1月の国内二輪車生産台数は、54,523台（前年同月比 10.4%増）と、4か月連続で前年実績を上回った。原付第一種（50cc以下）は、11,629台（同 67.4%増）と、5か月連続で前年実績を上回った。原付第二種（51cc～125cc）は、1,676台（同 18.8%減）と、2か月連続で前年実績を下回った。軽二輪車（126cc～250cc）は、5,288台（同 6.4%増）と、2か月ぶりに前年実績を上回った。小型二輪車（251cc以上）は、35,930台（同 1.5%増）と、4か月連続で前年実績を上回った。</p> <p>出荷台数は、国内向けは、22,063台（同 10.3%増）と、4か月連続で前年実績を上回った。輸出向けは、38,002台（同 4.4%減）と、4か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本自動車工業会</p>
自 動 車 自動車部品	<p>1月の自動車国内生産台数は761,130台（前年同月比 3.8%増）と、3か月連続で前年実績を上回った。また、輸出は316,125台（同 5.8%減）と、6か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p>国内生産は、トラックが5か月連続で前年実績を下回ったものの、乗用車が3か月連続で前年実績を上回ったことから、全体でも3か月連続で前年実績を上回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本自動車工業会</p>
電気機械	<p>1月の冷蔵庫の国内出荷額は229億2,900万円（前年同月比 6.7%減）と、2か月連続で前年実績を下回り、国内出荷台数は228千台（同 3.9%減）と、3か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p>1月のエアコンの国内出荷台数は、家庭向けは520千台（同 19.7%増）と、2か月ぶりに前年実績を上回った。業務用は57千台（同 6.5%増）と、3か月連続で前年実績を上回った。</p> <p>12月の携帯電話と公衆用PHSを合わせた携帯電話の国内出荷台数は、1,651千台（同 11.5%減）と、8か月連続で前年実績を下回った。うち、スマートフォンは、1,015千台（同 3.6%減）と、4か月ぶりに前年を下回った。</p> <p>なお、単月のスマートフォン比率は61.5%であった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本電機工業会、日本冷凍空調工業会、JEITA/CIAJ</p>
生産用機械	<p>1月の工作機械の受注総額は、1,037億4,400万円（前年同月比 3.5%増）と、2か月連続で前年実績を上回った。</p> <p>内訳をみると、外需は659億9,400万円（同 8.7%増）と、2か月連続で前年実績を上回った。アジア向けが327億200万円（同 30.8%増）と、2か月連続で前年実績を上回った。内需は377億5,000万円（同 4.6%減）と、2か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p>県内中小企業からは、「アメリカの大統領が交代し、方針が以前と大きく変わった。中国、日本、メキシコ、ドイツは混迷しており、特に日本の自動車産業に対する風当たりは強く、今後の日本経済への影響が危惧され、先行きへの不安感が拭えない状況」という声や「現状、アメリカ、メキシコ向け機械設備の生産は堅調に推移しているが、どのような変化が起きるのか戦々恐々としている状況にある」という声が聞かれた。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本工作機械工業会、静岡県中小企業団体中央会</p>

業 種	産 業 動 向
楽 器	<p>1月の県内楽器メーカーの販売金額は、50億2,000万円（前年同月比 5.8%増）と、5か月ぶりに前年実績を上回った。内訳は輸出向けが22億3,100万円（同 10.0%減）、国内向けが27億8,900万円（同 23.1%増）であった。</p> <p>ピアノ生産台数は、2,669台（同 0.9%増）であった。機種別では、アップライトピアノが1,833台（同 7.6%増）、グランドピアノが836台（同 11.3%減）であった。また、販売台数は、輸出向けが1,684台（同 2.4%減）、国内向けが1,484台（同 27.6%増）であった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡県楽器製造協会</p>
紙	<p>1月の紙・板紙の国内出荷高は、1,924千トン（前年同月比 0.7%増）と、3か月連続で前年実績を上回った。内訳は、紙が1,089千トン（同 0.5%減）と、2か月連続で前年実績を下回った。板紙は835千トン（同 2.5%増）と、3か月連続で前年実績を上回った。</p> <p>品種別では、主力の印刷・情報用紙が、600千トン（同 0.3%減）と、3か月ぶりに前年実績を下回った。ティッシュペーパー、トイレットペーパー等の家庭紙は、138千トン（同 0.5%増）と、2か月ぶりに前年実績を上回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本製紙連合会「紙・板紙需給速報」</p>
缶詰・飲料	<p>1月の県内生産量は、食缶類が国内向け826千箱（前年同月比 0.2%増）と、2か月ぶりに前年実績を上回った。</p> <p>分類別でみると、水産缶（国内向け）は588千箱（同 1.7%減）と3か月連続で前年実績を下回った。うち主力であるツナ缶は425千箱（同 3.0%減）と、4か月連続で前年実績を下回った。</p> <p>農畜産缶（国内向け）は238千箱（同 5.3%増）と、11か月連続で前年実績を上回った。</p> <p>飲料缶類は、国内向けが4,933千箱（同 14.2%増）と、3か月ぶりに前年実績を上回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡県缶詰協会</p>
織 維	<p>1月の広幅織物の県内生産は、1,563千㎡（前年同月比 3.1%減）と、3か月連続で前年実績を下回った。このうち、綿布が主体の一般広幅織物の生産は、1,520千㎡（同 2.6%減）と、3か月連続で前年実績を下回った。別珍・コールテンの生産は、43千㎡（同 15.8%減）と、2か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p>小幅織物の県内生産は、33千㎡（同 0.2%減）と、13か月連続で前年実績を下回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞遠州織物工業協同組合、天龍社織物工業協同組合、浜松織物協同組合</p>
家 具	<p>1月の全国百貨店での家具販売額は、50億4,383万円（前年同月比 4.3%減）と、11か月連続で前年実績を下回った。また、大型量販店での家具・インテリアの販売額は、555億8,142万円（同 0.6%増）と、2か月ぶりに前年実績を上回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本百貨店協会、日本チェーンストア協会</p>

業 種	産 業 動 向
小 売 業	<p>1月の県内百貨店の売上高は、好天が続いたことや、主力の冬物衣料品が動き出したことにより、対前年比 0.2%増と、6か月ぶりに前年を上回った。</p> <p>商品別では、衣料品が同 2.5%減と、先月からマイナス幅を縮め、化粧品が同 14.6%増、美術・宝飾・貴金属が同 24.1%増とそれぞれ前年を上回った。</p> <p>東部地域に拠点を置く食品スーパーへの聞き取りでは、「野菜の相場が高く買い上げ点数が減少したものの好調な年始商戦の影響もあり、売上高は昨年度並みだった」、西部地域の総合スーパーへの聞き取りでは、「1月は地元企業の正月休みが長かったこともあり、月の前半は好調だった」という声が聞かれた。</p> <p>1月の県内のある商店街では、飲食類の提供や福銭のプレゼントで観光客や買い物客をもてなす正月感謝祭が実施された。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡県百貨店協会、静岡県地域産業課</p>
観 光	<p>平成29年1月の県内主要10観光施設の合計入込客数は約29万人で、前年同月比1.8%増となった。今年は、高気圧に覆われて晴れた日が多く例年より温暖な気候であったが、昨年同様の日並びとなり年始休暇が短かったことなどから客足が伸び悩み、微増にとどまった。</p> <p>主要有料道路（5路線）合計の通行車両数は、約68万台となっており、前年同月に比べて4.7%増となった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡県観光政策課</p>

＝ IVデータからみた県内主要産業 ＝

<二輪車>

	28年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
完成車生産台数(台)	16,802	16,487	16,815	13,421	13,818	20,095	24,249	19,835	19,174
前年同月比(%)	22.5	9.7	▲ 10.4	▲ 11.1	▲ 26.4	2.5	40.6	6.7	▲ 5.7
KD輸出額(百万円)	535	760	677	762	672	577	719	716	712
前年同月比(%)	▲ 42.9	▲ 7.6	▲ 25.9	7.7	▲ 15.4	▲ 10.2	▲ 0.8	▲ 22.4	▲ 3.8

<楽 器>

	28年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
生産総額(百万円)	3,376	4,157	3,817	3,309	3,851	3,696	3,635	3,294	3,082
前年同月比(%)	▲ 9.3	▲ 2.5	▲ 10.3	1.7	4.2	▲ 10.7	▲ 0.5	▲ 10.2	▲ 8.0

<缶詰>

	28年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
食缶生産高(千ケース)	1,019	1,112	1,031	983	1,069	1,026	970	815	826
前年同月比(%)	15.0	5.9	2.5	14.9	18.0	5.1	0.4	▲ 7.2	0.2
うち水産缶詰(%)	3.7	0.4	▲ 0.7	10.7	9.7	0.4	▲ 3.5	▲ 12.4	▲ 1.7
農畜産缶詰(%)	55.5	23.1	12.1	30.6	51.7	20.8	13.3	8.0	5.3
飲料缶生産高(千ケース)	8,363	7,714	8,479	7,428	7,146	6,562	6,641	5,985	4,933
前年同月比(%)	6.9	▲ 12.0	▲ 1.8	3.6	0.2	3.9	▲ 1.9	▲ 7.4	14.2

<織 維>

	28年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
広幅織物(千㎡)	1,203	1,196	1,133	1,135	1,458	1,522	1,693	1,694	1,563
前年同月比(%)	▲ 1.5	▲ 2.3	▲ 1.4	3.4	8.2	0.5	▲ 5.8	▲ 3.1	▲ 3.1
小幅織物(千㎡)	33	30	28	26	30	31	32	33	33
前年同月比(%)	▲ 16.4	▲ 20.1	▲ 22.3	▲ 20.8	▲ 24.7	▲ 21.4	▲ 21.3	▲ 14.4	▲ 0.2

<観 光>

	28年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月
観光施設(10施設)入込 (千人)	654	330	363	552	369	431	349	280	287
前年同月比(%)	▲ 3.0	▲ 3.9	19.4	1.2	▲ 22.8	▲ 6.2	▲ 11.4	7.4	1.8
有料道路(5路線)通行量 (千台)	732	649	755	862	677	711	701	741	678
前年同月比(%)	2.1	4.1	6.5	1.8	▲ 2.2	2.7	2.1	5.6	4.7

<特集>平成28年の静岡県経済を振り返って

1 平成28年の概況

“回復の兆しはあるが、総じて横ばいで推移した静岡県経済”

平成28年の静岡県経済は、設備投資などに回復の気配がうかがわれたものの、個人消費や生産で前年を下回り、総じて横ばいで推移した。

雇用は、改善の動きが続いている。

2 主要経済指標の動向

消費の動向

◎個人消費は、持ち直しに向けた動きがうかがわれたものの、やや弱さがみられた。

平成28年の個人消費の動向をみると、大型小売店販売額は、1月から7月まで概ね前年を上回って推移したものの、8月以降は11月を除き前年を下回り、年間合計でも前年を下回った。自動車(新車)新規登録台数は8月以降、乗用車が堅調に推移したものの、年間合計では前年を下回った。新設住宅着工戸数は、前年を下回る月もみられたものの、年間合計では前年を上回った。自動車(新車)新規登録台数や新設住宅着工戸数で持ち直しに向けた動きがうかがわれたものの、年間を通してみると前年を下回り、やや弱さがみられた。

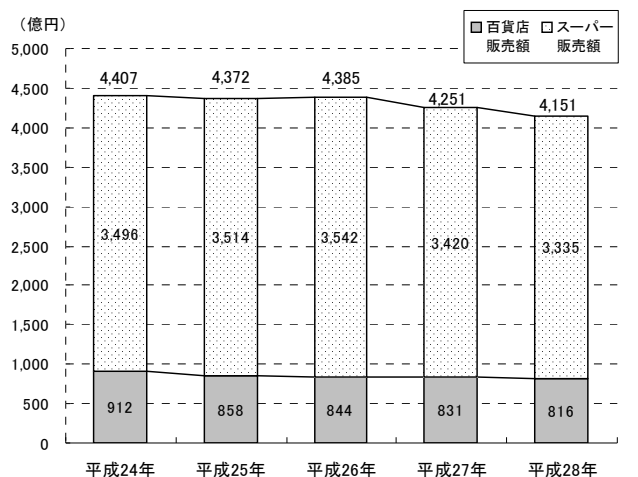
(大型小売店販売額)

大型小売店販売額は、百貨店(前年比1.9%減)、スーパー(同2.5%減)でいずれも減少したことから、全体では4,151億円(同2.4%減)と、2年連続で減少した。

(自動車(新車)新規登録台数)

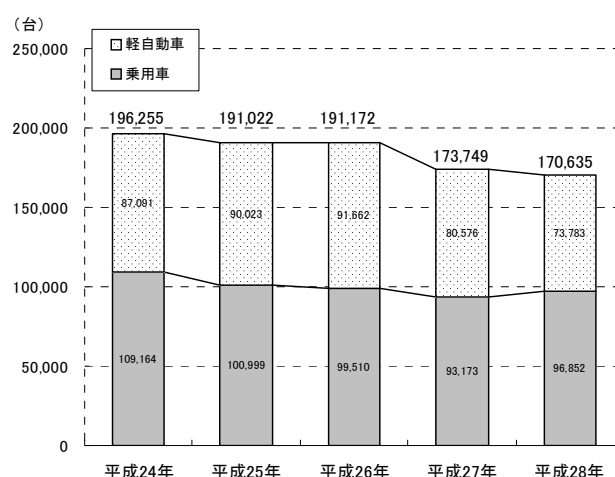
自動車(新車)新規登録台数は、乗用車(前年比3.9%増)で4年ぶりに増加したものの、軽自動車(同8.4%減)が2年連続で減少したことから、全乗用車では170,635台(同1.8%減)と、2年連続で減少した。

●大型小売店販売額の推移



<資料>経済産業省

●自動車(新車)登録台数の推移



<資料>県税務課

(新設住宅着工戸数)

新設住宅着工戸数は、前年を上回った。

持家(前年比 2.8%減)が2年ぶりに減少したものの、貸家(同 15.6%増)は2年ぶり、分譲住宅(同 1.2%増)は2年連続で増加したことから、合計では、24,951戸(同 3.7%増)と、3年ぶりに増加した。

投資の動向

◎公共投資は前年を上回った。

公共投資は、請負件数は7,503件(前年比 1.7%減)と、4年連続で減少し、請負金額は2,807億円(前年比 2.9%増)と、3年ぶりに増加した。

◎設備投資は持ち直している。

設備投資は、企業業績が好調な大・中堅企業を中心に、製造業では生産性向上関連や研究開発関連の投資がみられるなど、平成28年度(計画)は製造業(前年度比 8.4%増)、非製造業(同 0.7%増)ともに増加する計画となっており、全産業(同 4.9%増)では4年連続で増加する計画となっている(平成28年12月調査時点)。

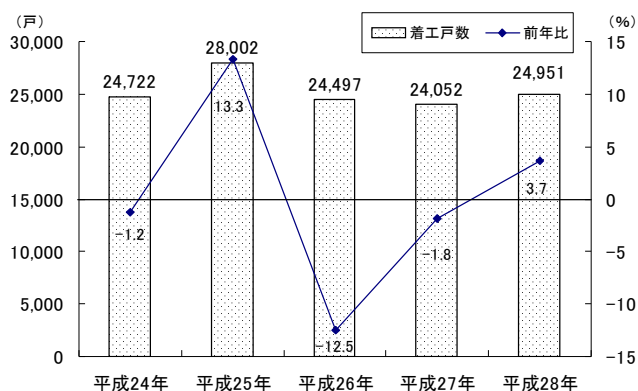
輸出入の動向

◎輸出は、減少が続いたが、秋以降は下げ止まりの兆しがみられた。

輸出は、年間を通じて概ね前年を下回って推移し、輸出額は1兆9343億円(前年比 4.0%減)と、2年連続で減少した。なお、秋以降は、アジア向けの輸出が持ち直したほか、自動車と自動車の部分品の輸出が増加するなど、下げ止まりの兆しがみられた。

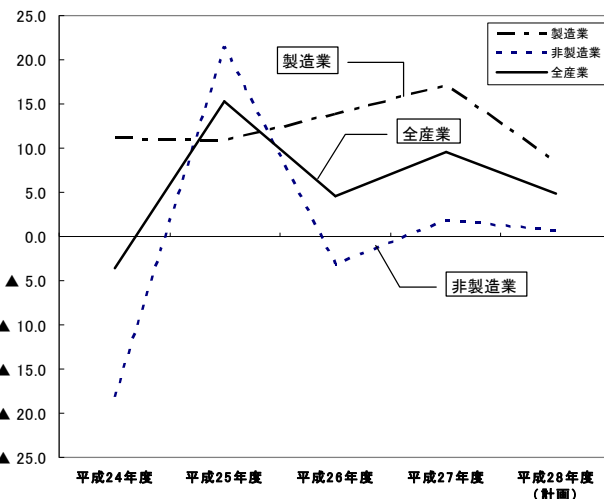
輸入は、木材やパルプの輸入が減少したことから、輸入額は9,073億円(前年比 10.5%減)と、

●新設住宅着工戸数の推移



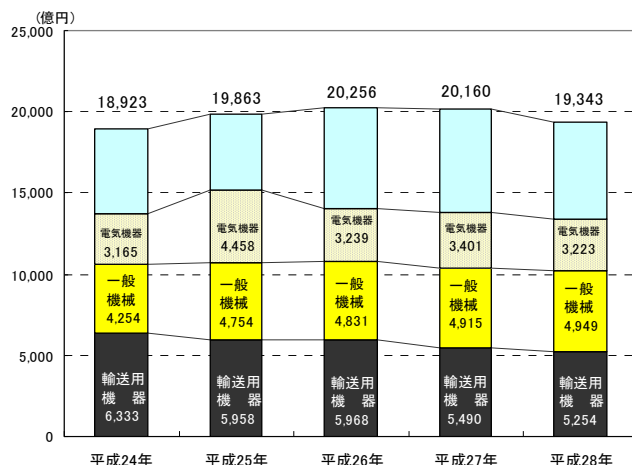
<資料>県住まいづくり課

●企業短期経済観測(設備投資)の推移



<資料>日本銀行静岡支店

●輸出額の推移



<資料>名古屋税関清水支署

2年連続で減少した。

生産の動向

◎生産は、減少傾向が続いた。

平成28年の生産の動向をみると、8月を除き年間を通じて前年を下回って推移し、前年から減少傾向が続いた。

(鉱工業生産指数)

鉱工業生産指数は、年間を通じて90.0前後で横ばいとなった。また、8月を除き前年を下回って推移し、総合では2年連続で前年を下回った。

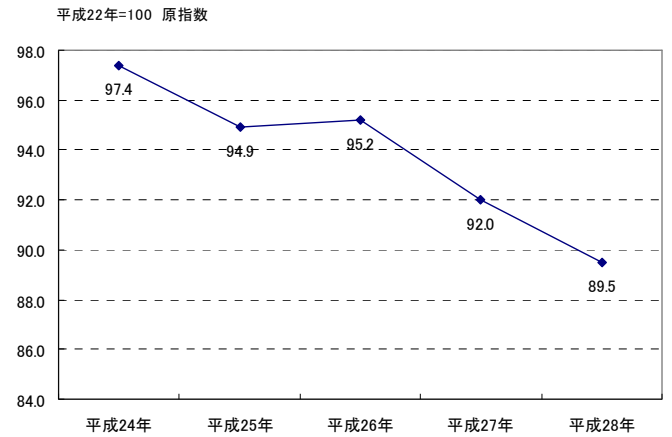
電気機械（前年比 4.3%増）、化学（同 6.9%増）が前年を上回ったものの、はん用・生産用・業務用機械（同 2.8%減）、輸送機械（同 12.2%減）、パルプ・紙・紙加工品（同 1.5%減）、食料品・たばこ（同 4.1%減）が前年を下回ったことから、総合では89.5（同 2.7%減）と、2年連続で前年を下回った。

(鉱工業在庫指数)

鉱工業在庫指数は、9月以降、4か月連続で前年を下回ったものの、8月まで8か月連続で前年を上回って推移したことから、総合では118.3（前年比 3.5%増）と、3年連続で前年を上回った。

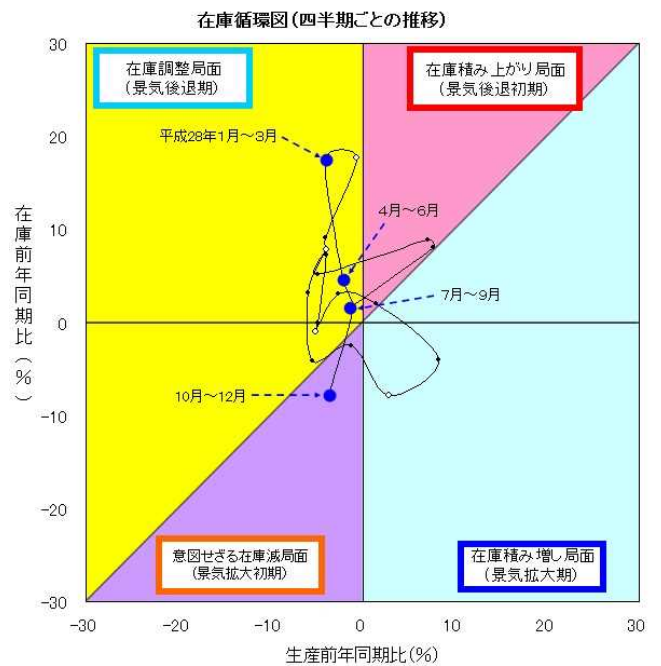
なお、在庫循環図でみると、「意図せざる在庫減局面（景気拡大初期）」に位置しており、生産は前年同期比でほぼ横ばいの中、在庫は減少していった。

●鉱工業生産指数の推移



<資料> 県統計調査課

●在庫循環図



<資料> 県統計調査課

雇用の動向

◎雇用は、改善の動きが続いている。

平成28年の雇用の動向をみると、有効求人倍率は常に1.20倍を上回り、改善の動きが続く中で、12月には1.41倍となった。また、全国値も同様に有効求人倍率が上昇し、同水準となった4月を除き全国値を下回って推移した。

(有効求人倍率)

有効求人倍率は、有効求人数が増加し、有効求職者数が減少したことから、基調として前月を上回って推移し、12月には1.41倍となった。

平成28年の年間有効求人倍率は1.34倍(前年比 0.17ポイント増)となり、7年連続で前年を上回った。

また、8年連続で全国値を下回り、全国値との差は0.02ポイントとなり、昨年と比べて0.01ポイント縮小した。

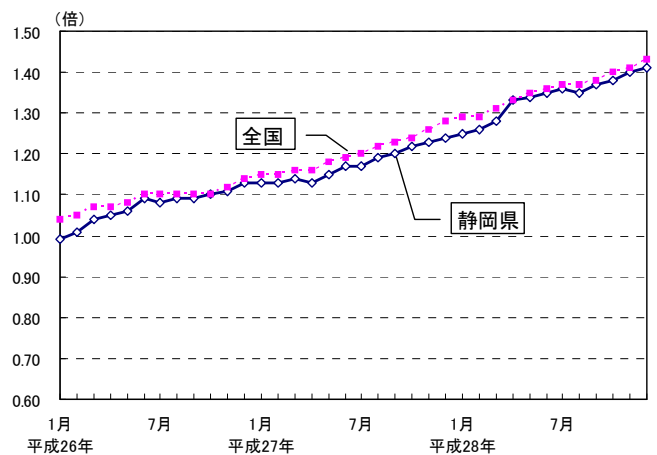
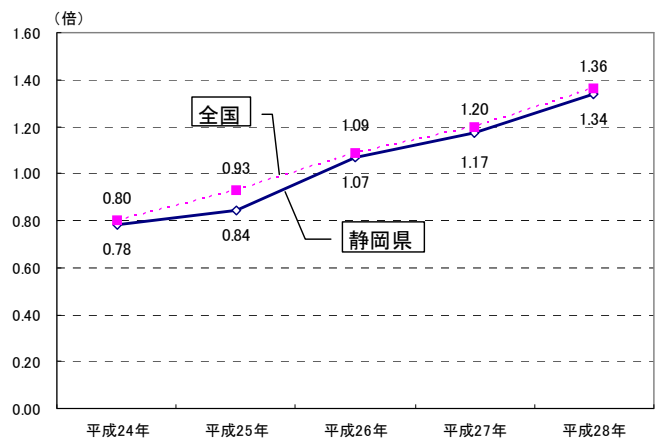
(雇用保険受給者実人員)

雇用保険受給者実人員は、年間を通じて前年を下回って推移し、12月時点で前年に比べて19,429人、11.8%の減少となった。

(所定外労働時間指数)

所定外労働時間指数は、4月から7月までの4か月間に前年を大きく上回って推移したことなどから、調査産業全体の平均は、111.2(前年比 1.8%増)と、4年連続で前年を上回った。

●有効求人倍率の推移(年別、月別)



<資料>厚生労働省

その他

【物 価】

国内企業物価指数（平成27年＝100）は、年間を通じて前年を下回って推移したことから、平成28年平均は96.5（前年比 3.5%減）となり、前年を3.5ポイント下回った。

【金 融】

県内金融機関の貸出残高は、年間を通じて前年を上回って推移し、12月末時点の貸出残高は13兆9,099億円（前年比 1.3%増）と、前年を1,759億円上回った。

県信用保証協会の保証承諾件数は24,635件（前年比 12.0%減）で、金額は2,408億円（同 8.5%減）と、いずれも減少した。

【為 替】

円相場（対ドル平均）は、1月の118円25銭から夏にかけて円高が進んだ。その後、金融政策正常化に向かう米国と大規模緩和を続ける日本との金融政策姿勢の差から円安となり、米国の大統領選挙が行われた11月以降は、新政権が掲げる政策への期待感から円安の動きが加速し、12月には115円95銭となった。

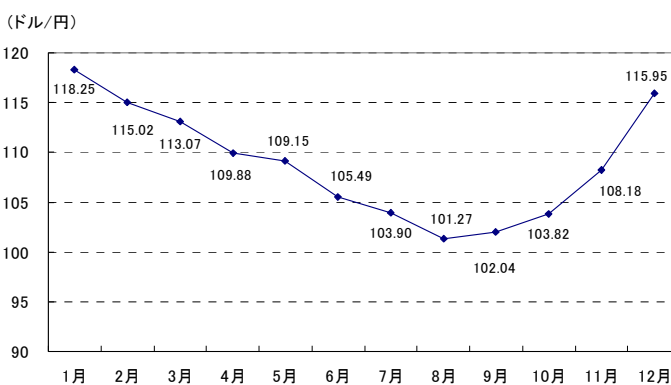
平成28年平均は108円84銭で、前年と比べて12円19銭の円高となった。

【企業倒産】

負債総額1,000万円以上の企業倒産件数は293件（前年比 11.8%増）となり、前年より31件増加した。負債総額は468億円（同 3.5%減）と、2年ぶりに減少した。

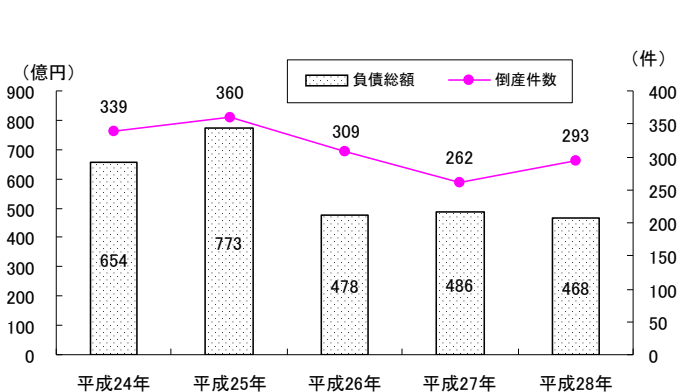
なお、既往のシロ寄せ、販売不振、売掛金等回収難を原因とするいわゆる「不況型倒産」は269件（同 31.2%増）となり、全件数の91.8%を占めた。

●円相場の推移



<資料> 日本銀行 東京為替相場

●企業倒産の動向



<資料> (株)東京商工リサーチ静岡支店

平成28年の静岡県主要産業の動向

業 種	産 業 動 向
二 輪 車	<p>平成28年の国内二輪車生産台数は、560,460台（前年比 7.3%増）と、2年ぶりに前年実績を上回った。</p> <p>出荷台数は、国内向けは338,440台（同 9.2%減）と、市場の半数を占める原付第一種（50cc以下）の需要が利用者の高齢化、若年人口の減少という構造的要因により、3年連続で前年実績を下回った。</p> <p>輸出向けは、429,099台（同 2.7%増）と、2年ぶりに前年実績を上回った。</p> <p>こうした中、二輪車の将来を考える官民一体の会議として、平成25年9月に立ち上げた「バイク・ラブ・フォーラム（略称B L F）」の第4回会議が、平成28年9月に兵庫県で開催され、二輪車業界の取組等が議論された。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本自動車工業会</p>
自 動 車 自動車部品	<p>平成28年の自動車国内生産台数は、9,204,696台（前年比 0.8%減）と、2年連続で前年実績を下回った。また、輸出は、4,634,097台（前年比 1.2%増）と、2年連続で前年実績を上回った。</p> <p>国内生産は、乗用車が前年比 0.6%増と、前年実績を上回ったものの、トラックが同 8.3%減と、前年実績を大きく下回った。</p> <p>輸出は、前年比 1.2%増と、全体では2年連続で前年実績を上回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本自動車工業会</p>
電気機械	<p>平成28年の冷蔵庫の国内出荷台数は、3,815千台（前年比 2.7%増）と、3年ぶりに前年実績を上回った。</p> <p>平成28年のエアコンの国内出荷台数は、家庭向けは8,352千台（同 3.1%増）と、3年ぶりに前年実績を上回った。業務用は794千台（同 0.2%減）と、2年連続で前年実績を下回った。</p> <p>平成28年の携帯電話と公衆用PHSを合わせた移動電話の国内出荷台数は、買替需要のあった昨年の反動減等により、17,174千台（同 20.3%減）と、2年ぶりに前年実績を下回った。うち、スマートフォンは9,663千台（同 11.9%減）と、単年のスマートフォン比率は56.3%であった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本電機工業会、日本冷凍空調工業会、J E I T A / C I A J</p>
生産用機械	<p>平成28年の工作機械の受注総額は、1兆2,500億300万円（前年比 15.6%減）と、2年連続で前年実績を下回った。</p> <p>内訳をみると、外需は7,194億5,800万円（同 19.6%減）と、2年連続で前年実績を下回った。アジア向けが2,869億3,300万円（同 35.3%減）、欧州向けが1,794億3,700万円（同 0.9%減）、北米向けが2,372億4,700万円（同 7.4%減）と、主要な地域でいずれも前年実績を下回った。</p> <p>また、内需は5,305億4,500万円（同 9.5%減）と、4年ぶりに前年実績を下回った。特に、自動車業界向けが1,748億5,300万円（同 14.3%減）と、4年ぶりに前年実績を下回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本工作機械工業会</p>

業 種	産 業 動 向
楽 器	<p>平成28年の県内楽器メーカーの販売金額は、636億5,800万円（前年比 4.5%減）で、内訳は輸出向けが324億9,000万円（同 12.6%減）、国内向けが311億6,800万円（同 5.9%増）であった。為替円高の影響により、輸出向けが減少した。</p> <p>ピアノ生産台数は36,008台（同 4.6%増）と、前年の減少から増加に転じ、2年ぶりに前年実績を上回った。機種別では、アップライトピアノが24,106台（同 10.0%増）、グランドピアノが11,902台（同 4.9%減）であった。また、販売台数は、輸出向けが24,489台（同 2.1%増）、国内向けが14,921台（同 4.3%増）であった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡県楽器製造協会</p>
紙	<p>平成28年の紙・板紙の国内出荷高は、24,928千ト（前年比 0.1%減）と、3年連続で前年実績を下回った。</p> <p>内訳は、紙が13,757千ト（同 1.4%減）と、3年連続で前年実績を下回り、板紙は11,171千ト（同 1.5%増）と、2年ぶりに前年実績を上回った。</p> <p>品種別では、ティッシュペーパーやトイレットペーパー等の家庭紙は、1,809千ト（同 2.3%増）と、2年ぶりに前年実績を上回った。</p> <p>生活必需品としての底堅い需要もあり、特にタオル用紙の需要増が牽引したと言える。印刷・情報用紙は7,615千ト（同 1.5%減）と、3年連続で前年実績を下回った。中でも情報用紙はPPC用紙の増加により微増となったが、電子化の進行などの影響で印刷用紙は減少し、全体として、不振が続いている。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本製紙連合会</p>
缶詰・飲料	<p>平成28年の県内生産量は、食缶類が国内向け11,734千箱（前年比 6.2%増）と、2年連続で前年実績を上回った。</p> <p>分類別でみると、水産缶（国内向け）は8,478千箱（同 0.8%増）、うち主力であるツナ缶も6,243千箱（同 1.3%増）と、2年連続で前年実績を上回った。</p> <p>農畜産缶（国内向け）は3,255千箱（同 23.3%増）と、3年ぶりに前年実績を上回った。</p> <p>飲料缶類は、国内向けが82,865千箱（同 1.5%減）と、5年連続で前年実績を下回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡缶詰協会</p>
織 維	<p>平成28年の広幅織物の県内生産は、17,067千㎡（前年比 0.1%減）であった。このうち、綿布が主体の一般広幅織物の生産は、16,423千㎡（同 0.4%減）、別珍・コールテンの生産は、644千㎡（同 7.7%増）であった。</p> <p>小幅織物の県内生産は、388千㎡（同 15.1%減）であった。</p> <p>生産量は、広幅織物、小幅織物共に減少傾向にあり、昨年は対前年比で微増となったものの、再び減少した。このため、業界としては、組合を中心に引き続き、県内外そして海外へと各種展示会への出展による新規需要・販路開拓を図っている。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞遠州織物工業協同組合、天龍社織物工業協同組合、浜松織物協同組合</p>

業 種	産 業 動 向
家 具	<p>平成28年の全国百貨店での家具販売額は、667億1,900万円（前年比 7.8%減）と、3年連続で前年実績を下回った。また、大型量販店での家具・インテリアの販売額は、6,247億5,700万円（同 1.9%増）と4年連続で前年実績を上回った。</p> <p>こうした中、県内業界では、国内最大級の家具見本市「シズオカ[KAGU]メッセ2016」の開催や、全国の見本市への出展など、販路開拓に取り組んだ。</p> <p>＜資料＞日本百貨店協会、日本チェーンストア協会、地域産業課</p>
小 売 業	<p>平成28年の県内百貨店売上高は、755億円で、対前年比 2.3%減となった。売上高の3割を占める衣料品は、カジュアル衣料品等が各世代に浸透し、通販サイトの利用者も増えていることから、年間を通して低迷が続いた。</p> <p>一方、化粧品は百貨店の接客販売が強みとなり、好調を維持している。</p> <p>また、訪日外国人による売上げは、ブランド品や電気製品を購入する「モノ消費」から、体験型の「コト消費」に変わったことなどにより、下半期には前年比マイナスとなる月が多くみられた。</p> <p>県内の総合スーパーや専門店では、カジュアル衣料品やファミリー向け衣料品が売れていたが、秋口は気温が高めに推移し売上げが落ちていた。食品スーパーでは、野菜の相場高や鮮魚の不漁など、自然現象が売上高に悪影響をもたらすことが多かった。</p> <p>＜資料＞静岡県百貨店協会、静岡県地域産業課</p>
観 光	<p>平成28年の県内主要10観光施設の合計入込客数は、約488万人で、前年比 0.4%増と、前年実績を上回った。</p> <p>主要有料道路（5路線）合計の通行車両は、約860万台で、前年比 3.5%増と、前年実績を上回った。</p> <p>＜資料＞静岡県観光政策課</p>

本書で掲載している県内の主要統計資料の時系列（過去10年間）のデータは静岡県公式ホームページの「統計センターしずおか」で公表しています。

静岡県公式ホームページ⇒統計・調査⇒統計センターしずおか⇒県内主要統計指標
<http://toukei.pref.shizuoka.jp/>

需要面	生産面	雇用面	その他
・大型小売店販売額	・鉱工業生産指数	・有効求人倍率	・国内企業物価指数
・百貨店販売額	・鉱工業在庫指数	・雇用保険受給者実人員	・県内金融機関貸出残高
・専門量販店等販売額		・完全失業率	・信用保証協会保証金額
・自動車新規登録台数		・所定外労働時間指数	・企業倒産件数
・新設住宅着工戸数			
・清水税関支所管内輸出額			
・清水税関支所管内輸入額			

提供いただいている資料

資料名	提供元	ホームページアドレス
公共工事請負金額	東日本建設業保証（株）	http://www.ejcs.co.jp/region/index.html
設備投資	日本銀行静岡支店	http://www3.boj.or.jp/shizuoka/kouhyou/hyousi_f.html
貸出約定金利		
国内企業物価指数	日本銀行	http://www.boj.or.jp/type/stat/boj_stat/index.htm
円相場		

参考となる全国の資料等

資料名	提供元	ホームページアドレス
鉱工業生産指数	経済産業省	http://www.meti.go.jp/statistics/index.html
大型小売店販売額		
専門量販店等販売額		
輸出入	財務省	http://www.mof.go.jp/siryou.htm
国際収支		
機械受注	内閣府	http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/juchu.html
完全失業率	厚生労働省	http://www.dbtk.mhlw.go.jp/toukei/kouhyo/index.html
有効求人倍率		

静岡県月例経済報告
平成29年3月号 通巻491号

発行 静岡県経済産業部
平成29年3月

編集 経済産業部管理局政策監
〒420-8601
静岡市葵区追手町9-6
TEL 054-221-2635
FAX 054-221-3217
E-mail keisan-seisaku@pref.shizuoka.lg.jp
URL <http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/>